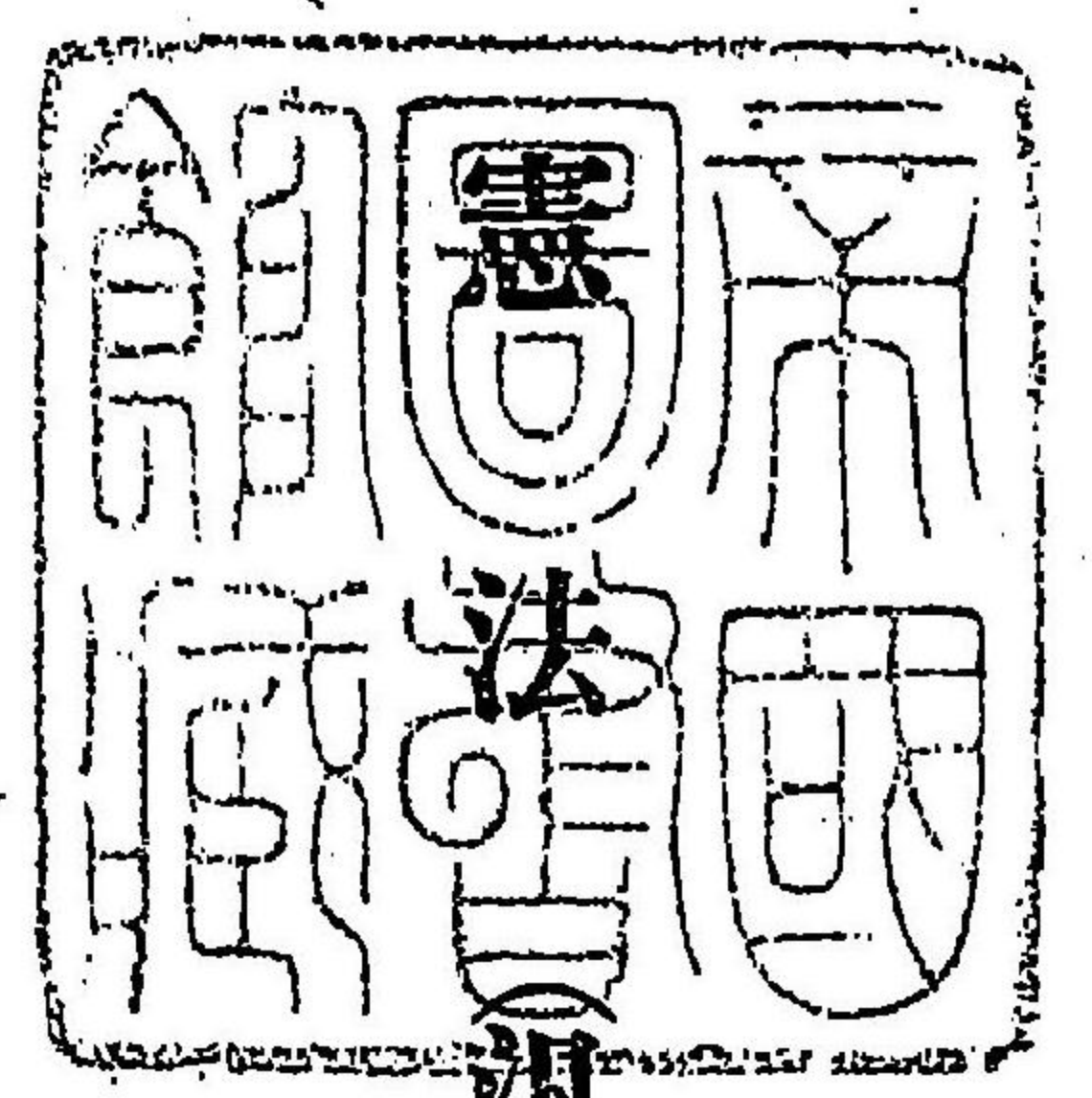


Handwritten notes in the top right corner, including the number '11' and some illegible characters.

Vertical handwritten text on the right side of the page, possibly a library or collection number.

本校講師 井上 密講述  
法學士



汎論講義



完.

和佛法律學校出版部



# 憲法汎論講義目次

緒論	一
第一章 國家ノ定義	一
第二章 國家ノ種類	二五
第一節 國家カ統治權ヲ行フ形式ヲ標準トシテ區別シタル國家ノ種類	二六
第二節 國家ノ構成分子ヲ標準トシテ區別シタル國家ノ種類	三四
第三章 憲法ノ定義	四九
第一節 公法ト私法トノ區別	四九
第二節 憲法	六三

## 憲法汎論講義目次畢



# 憲法

本校講師 井上密講述

## 緒論

### 第一章 國家ノ定義

國家ハ如何ナルモノナルヤト云フコトハ憲法上ニ於ケル最モ重大ナル問題ナリ。憲法ヲ研究セントスル者ハ必ス先ツ此問題ニ對シテ正確ナル研究ヲ遂ケサルヘカラス。是レ余カ緒論ノ冒頭ニ於テ國家ノ定義ト云フ章ヲ掲ケ之ヲ詳論セントスル所以ナリ。然レトモ國家ノ定義ニ關シ學者各其見解ヲ異ニシ其學說未タ一定セサルヲ以テ余ハ先ツ學說中其重要ナルモノヲ擧ケ之ヲ詳論シ最後ニ國家ハ果シテ如何ナルモノナルヤヲ説明スヘシ

第一 團體說。此說ヲ唱フル學者ハ國家ノ定義ヲ下シテ「國家トハ同一主權ノ支配ヲ受ケ一定ノ土地ニ居住シ政治上ノ組織ヲ有スル人類ノ團體ナリ」ト云ヘ



此定義ハ重ニ佛國公法學者ノ間ニ行ハレタルモノニシテ佛派ノ學流ヲ拘ミテ  
 我國公法學者中ニモ亦此說ヲ主張スル者尠カラズ。然レトモ此定義ハ左ノ  
 如キ二ノ欠點アルヲ以テ正當ナルモノト云フコト能ハス  
 第一欠點 ハ、國家ヲ以テ被治者ナリト云フ結果ヲ生シシムルニ在リ。此定義  
 ニ依レハ國家ヲ以テ同一主權ノ支配ヲ受ケ一定ノ土地ニ居住シ政治上ノ組織  
 ヲ有スル人類ノ團體トナスカ故ニ國家ハ一定ノ土地ニ根據スル人類ノ團體ニ  
 シテ同一主權ノ支配ヲ受クルモノ即チ被治者ニシテ治者ニアラスト云フ結果  
 ヲ生ス。

然ルニ我憲法第六十四條及第七十二條ヲ見ルニ國家ノ歲出歲入ト云フ文字ヲ  
 用ヒ會計法第十條ニ租稅及其他ノ歲入ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ之ヲ徵收スト  
 アリ。國家ハ法律及命令ニ仍リテ租稅及其他ノ歲入ヲ徵收シ國家ノ歲入トナ  
 スコトヲ法ノ明文ニ規定シ國家ハ支配ヲ受クルモノニアラスシテ支配ヲ行フ  
 者即チ治者ナルコト明ナルヲ以テ此定義ハ國法ノ規定ニ牴觸シタル論結ヲ生

スルニ至ル。是レ此定義ノ欠點トスル所ナリ

第二欠點 ハ、國家ト地方團體トノ區別ヲ失フニ在リ。此定義ニ依ルトキハ府  
 縣郡市町村ノ如キ地方團體モ亦國家ナリト云ハサルヘカラサルニ至リ國家ト地  
 方團體トノ區別ヲ失フ。何トナレハ府縣郡市町村ノ如キ地方團體モ亦同一ノ  
 主權ニ服從シ、一定ノ土地ニ居住シ政治上ノ組織ヲ有スル人類ノ團體ニシテ此  
 定義ニ所謂國家ノルモノト全ク同一ナレハナリ。

要スルニ此定義ニ依ルトキハ國法ノ認メテ治者ナリトスル處ノモノヲ以テ被  
 治者ナリトシ國法ノ認メテ國家ニアラサル地方團體ナリトスルモノヲ以テ國  
 家ナリト云ハサルヘカラサルニ至リ國法ノ規定ニ牴觸スルノ結果ヲ生ス。是  
 レ此定義ヲ以テ正當ニアラスト云フ所以ナリ

第二 民約說 民約說ヲ唱フル學者ハ國家ノ定義ヲ下シテ國家トハ、各個人カ  
 其共同目的ヲ達センカ爲メナシタル契約上ノ結合ナリト謂ヘリ。

民約說ハ英國ノホッブス氏和蘭ノグロチユース氏獨國ノカント氏等盛ニ之ヲ  
 唱ヘ後佛人ルーソー氏ノ快活奇拔ナル民約論ニ依リテ法學者間ノミナラス普



通人ノ間ニモ悉知セラレタリ。

民約説ヲ唱道スル學者ハ國家ニ關スル説明ヲナシテ曰ク抑モ人類社會ノ根源ニ遡ホリ其狀態ヲ見ルニ人類ハ個々獨立シテ各自其生存ヲ圖レリ。然レトモ各自獨立レテ其生存ヲ計ルトキハ其生命財產ノ安全ヲ保有スルコト能ハサルノミナラス人類ノ進歩發達ハ得テ望ムヘカラサルヲ以テ各個人ハ其共同目的ヲ達スル爲ニ相互ニ契約結合シテ茲ニ國家ナルモノヲ組織セリ。即チ國家ハ各個人カ其共同目的ヲ達スル爲メナシタル契約上ノ結合ナリト。然レトモ予ノ見解ニヨレハ此定義モ亦團體説ノ定義ト同ク二個ノ欠點アルヲ以テ贊成スル能ハス。

第一欠點 ハ、國家ヲ以テ個人ノ契約上ノ結合ナリトナスニ在リ。抑モ契約ハ契約者即チ當事者ノ合意一致ヲ以テ成立變更廢棄スルコトヲ得ルモノナレハ若シ國家ヲ以テ個人ノ契約上ノ結合ナリト爲ストキハ國家及國家ノ組織ハ國民各個人即チ當事者ノ合意ヲ以テ自由ニ變更廢除スルヲ得ルモノナリト云ハサルヘカラス。然ルニ各國ノ憲法ニ依レハ國家組織ノ變更等ハ假令契約者

ル國民全体ノ合意一致アルモ之ヲ變更シタルモノト見做ス能ハス苟モ國家ノ組織ヲ變更セント欲セハ憲法上規定セル一定ノ形式ニ依ラサルヘカラス。其形式ニ依ラサルトキハ例令當事者ノ合意一致アルモ國家ノ組織ハ變更セラレタリト云フコトヲ得ス。何トナレハ國家ノ組織ノ變更ハ統治權ノ作用ナリ。統治權ノ作用ハ憲法ノ條規ニヨリテ行フヘキコトハ我國及歐洲ノ憲法ニモ規定セルヲ以テ今茲ニ國家ノ組織ヲ變更セントセハ憲法ノ條規ニ依テ行ハサルヘカラス憲法ノ條規ニ依ルトキハ國家ノ組織ヲ變更スルニハ憲法等ノ變更ヲ要ス。憲法等ノ變更ヲナスニハ或ハ君主ノ裁可ヲ要シ或ハ國會ノ協贊ヲ經ルト云フカ如キ一定ノ形式ヲ必要トナシ雷ニ契約者ノ合意一致ハミニテ變更アリタリトナサハルヲ以テ其形式ニヨラスレテ行フタル變更ハ憲法ノ條規ニ反シテ爲シタルモノナレハ法律上ノ變更ニ非ス。法理上之ヲ觀察スルトキハ變更ナク國家ノ組織ハ依然舊ノ如ク存在スレハナリ。國家ハ契約上ノ結合ナリト云フノ説ハ如斯論理ノ撞着ヲ惹起スルノミナラス此説ニ依ルトキハ我家ノ憲法ヲ始トシ總テノ法規ヲ正當ニ解釋スルヲ得ス。獨リ我國ニ於テ然ルノミナラ



ス英佛獨其他ノ國法ニ就テモ亦法理上貫徹シタル解釋ヲ爲スコト能ハス。之レ國家ヲ以テ個人ノ契約上ノ結合ナリトナスハ欠點ナリト云フ所以ナリ。

第二欠點 ハ、民約説ハ、歴史上ノ事實ニ反スト云フニ在リ。民約説論者ハ國家ノ定義ヲ下シテ國家ハ契約上ノ結合ナリト云ヒ國家ハ總ヘテ契約ニヨリテ成立シタル者トセリ。然レトモ歴史ニ徴シテ各國ノ成立ヲ窺フニ必ラズシモ獨立ノ契約ノミニ依リタルモノニアラス或ハ戰爭奪略ニ起リ或ハ贈與ニ基キ或ハ先占ニ依テ成立スル等其ノ成立ノ原因ハ一ニシテ足ラス心シモ契約ニノミ依リテ成立セス。而シテ又タ之ヲ契約ニノミ依リタリト云フノ必要ナシ。個人又ハ國際ノ條約ニ依リテ國家成立現象中ノ一現象タルニ過キス其一現象ヲ取テ以テ全現象ヲ蔽ヒ去ラント欲スルハ不當モ亦甚シキモノト云フヘシ。是レ契約説ハ歴史上事實ニ反スト云フ所以ナリ。要スルニ國家ノ成立原因ハ千差萬別必ラスシモ唯一ノモノニアラサレハ其成立原因ニ依リテ國家ノ定義ヲ下スコト能ハス憲法上國家ハ如何ナルモノナルヤヲ研究スルニハ既ニ成立シ既ニ存在スル國家ノ現狀ニ就テ觀察スルモノニシテ其成立原因ノ如何ヲ問フノ

必要ナキノミナラス又問フヘキモノニアラサルナリ。國家成立原因ハ國法学ヲ研究スル上ニ於テ毫モ關係アルコトナシ。

第三 有機體説 有機體説ヲ唱フル學者ハ國家ノ定義ヲ下シテ國家ハ人類ハ共同目的ヲ達スルカ爲メ存在スル有機體ナリト謂ヘリ。

有機體説ハフヒテ一及ヒシルリング氏等ノ説ニ依リテ世間ニ傳播セシカ其後ブルンチリ一及シユルチエー等ノ諸大家之ヲ敷衍擴張シテ精密ナル説明ヲ與ヘシヨリ一時ハ殆ント此説ニ向テ異論ヲ唱フル者ナキニ至レリ。然ルニ千八百六十九年ニ獨逸ノグレル氏カ「獨逸國家法論綱」ト題スル著書ノ附録ニ於テ有機體説ニ對レテ非難ヲ試シタルヲ始メトシ其後千八百七十三年ニ至リクリケシ氏カ「有機體國家説」ニ就テト云フ標題ノ小冊子ニ於テ此説ノ非ヲ辯セシヨリ攻撃論者彬々トシテ輩出シ爲メニ從來確乎不拔ノ定説タリシ有機體説モ漸ク維持スヘカラサルニ至レリ。然レトモ有機體説ハ一時大ニ學者ノ腦葉ヲ支配シタル學說ナレハ余輩ハ第三説トシテ茲ニ有機體説ヲ掲ク。

有機體説ヲ採容スル學者ハ國家ノ説明ヲ爲シテ曰ク「國家ハ素ヨリ一定ノ土地



ニ住居スル人民ノ集合ヨリ成立スルモノナリ。而シテ其集合体ニハ必シモ各個人ノ目的ト異リタル目的即チ共同目的ナルモノ存在シ國家ハ此ノ目的ヲ達スルカ爲ニ種々ノ機關ヲ備ヒ其機關ヲシテ一定ノ作用ヲ爲サシメ以テ國家ノ存在發達ヲ計リ隨テ各個人即チ國家ノ構成分子ノ幸福安寧ヲ保護ス。是レ恰モ人類及ヒ其他ノ動物ノ如キ有機體ハ皆細胞ヨリ成立シ耳目口鼻五臟六腑ノ如キ機關ヲ具有シ其機關ヲシテ各一定ノ作用ヲ爲サシメ此ニ依リテ以テ全體ノ發達ヲ計リ隨テ亦各細胞ノ存在安寧ヲ計ルト同一ナリ。故ニ曰ク國家ハ人類ノ共同目的ヲ達スル爲メニ存在スル有機體ナリト。

以上ハ有機體說ノ國家ニ關スル説明ノ要旨ナリ。然レトモ此說モ亦左ニ述フルカ如キ非難ヲ免レス。

第一 有機體說ハ國家ヲ以テ萬有學上ニ於ケル人類及其他ノ動物ノ如キ有機體ト比較シ多少類似ハ點アルヲ理由トシ直ニ萬有學上ノ用語ヲ借り來リ國家ハ有機體ナリト定義ヲ下セシ點ニ於テ誤アリ。國家ハ萬有學上ノ物體ニアラス萬有學上ノ用語ヲ借り國家ヲ指シテ有機體ナリト云フハ譬喩ナリ譬喩ハ法

理ニアラズ法理ニアラサル譬喩ヲ以テ國家ノ定義ヲ説明スルモ唯ニ國家關スル通俗ノ記事文ニハテ法律學上ノ定義説明トナスニ足ラサルナリ。

第二 有機體說ハ國家ハ人類ノ共同目的ヲ達スルカ爲メニ云々ト定義シ共同目的ヲ達スルカ爲メト云フコト國家ノ要件ト爲スト雖トモ是又不當ナリ。何トナレハ或國家ニ於テハ君主若クハ一二ノ貴族カ其權ヲ恣マニシ専橫驕奢ヲ行フコトヲ目的トシ政ヲ行フアラレ。又或國家ニ於テハ大地主等カ自個ノ利益ノミヲ計ルヲ目的トシ小地主小作人ヲ壓制シ國民一般ノ利益ヲ顧ミサルコトアラシ。蓋シ國家ハ目的ハ種々様々ニシテ必シモ一樣ナラズ人類ノ共同目的ヲ達スルハ國家唯一ノ目的ナリト法律上斷言スル事ヲ得ス。要スルニ國家ノ國家タル所以ハ其目的ノ如何ニヨリテ左右セラレサルハ勿論憲法上ニ於テ國家ノ定義ヲ下スニ當リ目的ノ如何ヲ問フノ必要ナシ。然ルニ有機體說ハ人類ノ共同目的ヲ達スルヲ以テ國家ノ國家タル必要條件ト爲スハ甚々其當ヲ得サルモノト謂フヘシ。

有機體說ハ以上二個ノ非難ヲ免カレサルヲ以テ一時大ニ學者ノ喝采ヲ博シタ



ル學說ナルニモ拘ハラヌ余輩ハ此說ニ服從スル能ハス  
 第四 法人說。法人說ハ國家ノ定義ヲ下シテ、國家トハ公ハ法人ナリト謂ヘリ  
 此說ハゲルベル及ラバンド等ノ諸大家カ有機體說ニ反對シテ唱道セシモノニ  
 シテ現今獨乙公法家ノ一般ニ採用スル所ノモノナリ。此說ヲ主張スル學者ハ  
 國家ニ關スル說明ヲ爲シテ曰ク。

抑モ法律上總テノ事物ヲ概括スル時ハ人物及ヒ法ノ關係ノミニ歸着スルヲ以  
 テ法律上ヨリ或事物ノ性質ヲ說明セント欲セハ其事物ハ人ナルカ物ナルカ將  
 タ法ノ關係ナルヤヲ研究セサルハカラス故ニ又法律上國家ハ如何ナルモノナ  
 レヤヲ說明セント欲セハ國家ハ人ナルヤ物ナルヤ將タ亦タ法ノ關係ナルヤヲ  
 說明セサルヘカラス。然ルニ有機體說ヲ主張スル學者ハ說明ノ標準ヲ茲ニ求  
 メスシテ他ニ萬有學上ノ用語ヲ借リ來リ、比喻的ニ國家ハ有機體ナリト云フト  
 雖、是等ハ萬有學上ノ說明ニシテ、法律學上ノ說明ニアラサルナリ。是有機體  
 說ヲ排斥シテ人物及法ノ關係ノ三者ヲ標準トシテ國家ノ說明ヲ試ムル所以ナ  
 リト。而シテ此等ノ學者ハ此ノ三者ヲ標準トシテ國家ハ果シテ如何ナルモノナ

ルヤヲ說明シテ曰ク。

第一ニ國家ハ物ニアラス。何トナレハ法律上物トハ權力若クハ權利ノ目的物  
 ヲ指スモノナルカ故ニ國家ヲ以テ物ナリトスルトキハ國家ハ權力若クハ權利  
 ノ目的物即チ被治者ナリト謂ハサルヘカラス。然ルニ憲法上國家ハ常ニ權力  
 及ヒ權利義務ノ主體ニシテ目的物即チ被治者ニアラサレハナリ。  
 第二ニ國家ハ法ノ關係ニアラス。法ノ關係トハ法ニヨリテ認めラレタル人ト  
 人トノ間若クハ人ト物トノ間ニ存スル關係ナリ。人ト人若クハ人ト物トノ間  
 ニ存スル關係ナルカ故ニ法ノ關係其物ハ人ニアラス物ニアラス。人ニアラサ  
 ルカ故ニ法ノ關係ニハ意思ナク行爲ナク從テ權力若シクハ權利ノ主體ニアラ  
 サルナリ。

然ルニ國家ハ立法ニヨリ意思ヲ發表シ行政ニヨリテ之ヲ發行シ一定ノ權力及  
 權利義務ヲ有スルコト憲法上爭フヘカラサル事實ナルヲ以テ國家ハ權力及權  
 利義務ノ主體ニシテ法ノ關係ニアラス。

前ニ述ヘタルカ如ク法律上總テノ事物ヲ概括スルトキハ人物及法ノ關係ナル



カ故ニ既ニ國家ハ物ニアラス法ノ關係ニモアラストナストキハ論理上當然ノ結果トシテ國家ハ人ナリト謂ハサルヘカラス。國家ハ人ナリト云フコトハ實ニ理論上ニ於テ然ルハミナラス法律の現象ノ實際ニ就テ考フルモ亦然リト謂ハサルヘカラス。何トナレハ法律上人トハ權力若クハ權利義務ノ主體ト云フコトナルニ憲法上國家ハ統治權ヲ有シ一定ノ歳入ヲ有シ亦義務ヲ負擔スル能力アルモノナレハ國家ハ權力及セ權利義務ノ主體即チ人ナルコト明ナレハナリ。而シテ單ニ權利義務ノ主體タルノミナラス權力ノ主體ナルヲ以テ國家ハ公法上ノ人ナリ。

公法上ノ人ナリト云フト雖モ有形ノ肉體ヲ具備スル自然人ニアラスシテ無形ノ人即チ法人ナリ。故ニ曰ク國家ハ公ノ法人ナリト以上ハ法人說ヲ主張スル公法家ノ國家ニ關スル説明ノ大要ナリ。余輩ハ此等ノ公法家カ國家ノ説明ヲ爲スニ當リ人物及法ノ關係ノ三者ヲ標準トナシ國家ハ物ニアラス又法ノ關係ニアラス權力及ヒ權利義務ノ主體ナリトナシタル點ニ就テハ大ニ贊成ヲ表ス。然レトモ國家ヲ以テ法人ナリト云フニ至リテハ異

論ナキ能ハス。抑モ法人トハ法律上擬制ナリ法律上ノ擬制ナルカ故ニ法人ハ法律ノ認許ニ依リテ成立スルモノニシテ法人ハ法律アリテ後ニ存在シ法律ナキ所ニ法人ナシ。是レ我カ民法人編第五條ニ於テ法人ハ公私ヲ問ハス法律ノ認許スルニアラサレハ成立スルコトヲ得スト規定セル所以ナリ。而シテ法律ハ國家ニヨリテ製作セラレ國家ニヨリテ存在ス國家ナキ以前ニ法律ナシ。即チ法人ハ法律アリテ後ニ存在シ法律ハ國家アリテ後ニ存在スルナリ。今法人說ニ從ヒ國家ハ法人ナリト云フ時ハ法人ハ法律ニ依リテ作ラレタル者ナレハ國家モ亦法律ニ依リテ作ラレタル者ト云ハサル可カラス。國家ナキ以前ニ法律存在シ其法律ニヨリテ國家ハ認許セラレタル者ナリト云フ論結ヲ生シ國家ナキ以前ニ法律ナシト云フ原則ニ牴觸ス。是レ國家ハ法人ナリト云フニ至リテハ異論ナキ能ハスト云フ所以ナリ。要スルニ法人說ハ憲法ノ研究ノ上ニ付テ真正ナル方針ヲ與ヘタルモノニシテ其功沒スヘカヲサルモノナリト雖トモ法人ト云フノ詞ヲ用ユルカ故ニ前述ノ如キ不都合ナル論結ヲ生スルヲ以テ現今公法學者ノ一般ニ採用スル所ノモノ



ナルニモ拘ラス余輩ハ聊カ賛成ヲ表スルコトニ躊躇ス。

第五 統治主體說 此說ハ國家ノ定義ヲ下シテ「國家トハ統治ノ主體ナリト謂ヘリ。此說ハ普魯亞國ノ公法家ボルンハツクカ主張スル所ノモノナリ。近頃獨逸ニ於ケル公法學者ハ皆テ法人說ヲ採用シ敢テ異論ヲ挾ム者アラサリシ然ルニボルンハツク氏獨リ法人說ヲ排斥シ千八百八十八年出版魯國々家法第一卷ニ於テ國家トハ統治ノ主體ナリト定義セリ。今ボルンハツク氏ノ定義ニ依リ國家ハ如何ナルモノナルヤヲ考フルニ同說ハ國家トハ統治ノ主體ナリト定義セリ。而シテ其統治ト云フコトハ自由ノ人ニ對シテ其作為不作爲ヲ命令シ其服從ヲ強行スルコトヲ云フ。換言スレハ統治トハ服從ヲ命令強行スルノ義ニシテ權力ノ作用即チ一方ハ命令シ一方ハ服從スルト云フ不平等ノ關係ヲ意味スルモノナリ。故ニ國家ハ統治ノ主體ナリト云フ意味ハ國家ハ命令強行ノ主體即チ權力ノ主體ナリト云フコトナリ。ボルンハツク氏ハ如斯國家ノ定義ヲ下シ國家ノ定義ハ是ヲ以テ盡セルモノナリト云フト雖モ然レトモ尙ホ能ク精密ニ考フル時ハボルンハツク氏ノ定義モ

亦、狹隘ニ失スルノ弊アリ。同氏ノ如ク國家ヲ以テ統治ノ主體ナリト定義スルトキハ國家ノ不平等ノ關係ニ於テ權力ノ主體トシテ顯ハレタル時ハ國家ニアラスト云ハサル可カラス。然ルニ各國憲法ヲ見ルニ國家カ權力ノ主體トシタル收入支出ノミヲ以テ國家ノ歳入歳出ト成サス國家カ平等ノ位置ニ立テ權利義務ノ主體トシテ一私人トナシタル契約及取引ヨリ生スル收入支出ヲモ國家ノ歳入歳出トナスカ故ニ國家ハ權力ノ主體トシテ顯ハル、ノミナラス平等ノ關係ニ於テ權利義務ノ主體トシテ顯ハル、場合アルコト瞭カナリ。即チ憲法上國家トハ權力ノ主體タルノミナラス權利義務ノ主體タル場合ヲモ指スモハナレハボルンハツク氏ノ如ク國家ハ統治ノ主體ナリト定義シ權力ノ主體トシテ顯ハレタル場合ノミ國家ナリト云フカ如キ論結ヲ生セシメタルハ狹隘ニ失レタル定義ト云ハサル可カラス。

要スルニ以上ニ述ヘタル諸學者ノ定義ハ各既ニ説明セルカ如キ欠點アリト信スルヲ以テ余輩ハ其長ヲ採リ短ヲ捨テ左ノ如キ定義ヲ下サントス。  
國家トハ一定ノ土地及人民ヲ支配スル固有ノ統治權及ヒ權利義務ノ主體ナ



余輩ハ如斯國家トハ權力及ヒ權利義務ノ主體ナリト云フヲ以テホルンハツク  
 氏ノ定義ノ如ク狹キニ失スルノ弊ナカルヘシ。又權力及ヒ權利義務ナリト云  
 ヒ法人ナリト云ハサルカ故ニ法人説ノ定義ノ如キ不都合ノ論結ヲ避クルヲ得  
 ヘシ。余輩ハ又國家トハ固有ノ統治權ヲ有スル云々ト定義シ地方團體ノ如キ  
 公法上ノ法人、國家トノ間ニ確然タル區別ノ標準ヲ與ヘントス。何トナレハ  
 固有ノ統治權トハ法ニ依リテ與ヘラレハル統治權ト云フ義ニレテ法ノ存在セ  
 サル以前ニ於テ既ニ存在セシ法ヲ造出スル權力ナリ。而シテ國家ノ統治權即チ  
 國家ノ權力ハ法ニ依リテ與ヘラレタルモノニアラス法ノ存在ヒサ、以前ニ於  
 テ既ニ存在セシ其權力ニ依リテ法ヲ造リ出スモノナリ。然ルニ地方團體ノ如キ  
 公ノ法人ハ條例ヲ設ケ規則ヲ造リ地方稅ヲ徵收スル等ノ權力ヲ有スト雖モ其  
 權力ハ固有ノ權力ニアラスシテ府縣郡市町村制ノ如キ種々ノ法ニヨリテ與ヘ  
 ラレ法ハ増減變換ニヨリテ増減變換セラルル權力ニシテ國家ノ權力ノ如ク法  
 ニヨリテ與ヘラレサル固有ノ權力ニアラスレハナリ。固有ノ統治權ハ國家ノ

國家ナル本職ニシテ國家ト他物トノ區別スル特性ナリ。

余ハ又通常一般學者ノ唱道ス、如ク最高無制限ノ權力ヲ以テ國家ノ必要條件  
 ト爲サルカ故ニ定義中ニ最高無制限ト云フ文字ヲ挿入セス。公法學者多ク  
 ハ最高無制限ノ權力ヲ以テ國家ニ欠ク可カラサルノ要素トナスト雖トモ余ノ  
 考フル所ニヨレハ最高無制限ノ權力ハ一般ノ學者カ主張スル如ク國家ノ必要  
 條件ニアラス吾人ハ通常單一ナル國家ヲ認メテ國家ト稱シ而シテ其單一ナル  
 國家ニハ通常最高無制限ノ權力存在スルヲ以テ此ノ普通一般ノ事實ヨリシテ  
 遂ニ最高無制限ノ權力ハ國家ニ欠ク可カラサル要素ナルカ如ク考ヘ國家ト云  
 ヘハ必ス最高無制限ノ權力ヲ有シ最高無制限ノ權力ト云ヘハ必ス國家ノ特有  
 タルカ如ク信シタリシカ近來社會ノ發達進歩ト共ニ國家制度モ大ニ發達シ單  
 一ナル數多ノ國家ノ結合ヨリ組織セラレタル聯邦國ナルモノヲ生シ其聯邦國  
 ヲ組織スル各國ハ或ハ一定ノ事柄ニ關シテハ聯邦國ノ權力ニ服從シ其制限ヲ  
 受ケ最高無制限ノ權力ヲ有セサルモ憲法上尙ホ之ヲ稱シテ國家ト云ヒ最高無  
 制限ノ權力ハ國家ノ要素ニアラスルコト明瞭トナレリ。今實例ニ就テ之ヲ證



明センニ聯邦國ノ實例ハ獨乙帝國ノ如キ是ナリ  
 獨逸帝國ハフロエセン。ハバリヤ。サキツン。バーデン。ヘッセン等二十五ノ國家ヨ  
 リ組織セラレタル國家ニシテ獨逸帝國憲法中ニ列記セラレタル事件ニ關シテ  
 ハ各聯邦ヲ監督シ法律ヲ制定シ各聯邦ノ服從ヲ強行スルコトヲ得。即チ獨逸  
 帝國ハ其憲法中ニ於テ明ニ列記シタル事柄ニ就テハ各聯邦ノ上ニ位シ各聯邦  
 ハ獨乙帝國ヲ戴キ獨乙帝國ノ權力ニ服從シ其制限ヲ受クル者ニシテ最高無制  
 限ノ權力ヲ有スルモノニアラス。然ルニ獨乙帝國憲法第一條ニ於テ各聯邦ヲ  
 以テ國家ナリト認メ。又普國サキツン等各國ノ憲法ニ於テモ亦聯邦ヲ以テ國  
 家ナリト規定セリ。如斯聯邦ハ最高無制限ノ權力ヲ有セサルモ獨乙帝國憲法  
 及ヒ各聯邦ノ憲法ハ尙ホ之レヲ以テ國家ナリト認ムルカ故ニ最高無制限ノ權  
 力ハ國家ノ要素ニアラスシテ單一ナル國家ニ通常存在スル所ノ常素タルニ過  
 キス。之ニ反シテ固有ノ統治權ハ各聯邦之ヲ有シ各聯邦ハ獨乙帝國ヲ組織ス  
 ル時ニ當リ帝國憲法中ニ列記セル事柄ハ帝國ノ監督立法ニ讓リタレトモ其他  
 ノ事ニ至リテハ之ヲ保留シテ帝國ニ與ヘス自己ノ權力ニヨリテ自由ニ處分ス

ルコト、ナセリ。即チ帝國憲法中ニ列舉セサル總テノ事柄ニ對スル各聯邦ノ  
 權力ハ帝國憲法ニヨリテ與ヘラレタルモノニアラス却テ自己ニ保留シタル權力  
 ナリ。自己ニ保留シタル權力ニシテ法ニヨリテ與ヘラレタル權力ニアラサ  
 ルカ故ニ所謂固有ノ權力即チ固有ノ統治權ナリ。以上ニ述ヘタルカ如ク各聯  
 邦ハ最高無制限ノ權力ヲ有セサルモ固有ノ統治權ハ各聯邦之ヲ有スルノミナ  
 ラス凡ソ國家ト稱スルモノハ皆之ヲ有シ之ニ依リテ以テ國家ト國家ニアラサ  
 ルモノトヲ區別スルコトヲ得。是レ最高無制限ノ權力ハ國家ノ國家タル要素  
 特性ニアラスシテ其要素特性ハ固有ノ統治權ト云フコトニアリト云フ所以ナ  
 リ。  
 余ハ又一般學者ノ唱フルカ如ク國家ハ全能ナリト云ハス。一般學者ハ如何ナ  
 ル意義ニ於テ國家ハ全能ナリト云フヤ未タ全能ノ意義ヲ詳細ニ説明シタルモ  
 ノナキヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ若シ全能ト云フコトヲ以テ事實上ノ全  
 能ナリトナストキハ國家ハ全能ナリト云フハ大ナル誤ナリ。何トナレハ事實  
 上全能トハ其欲スル處ニシテ能クセサルモノナク成サント欲スル所ノモノハ



必ス成レ能フト云フ意義ナレハ國實ハ全能ナリト云フトキハ國家ハ其欲スル所ノモノハ必ス之ヲ能クシ其成サントスル所ノモノハ必ス成シ能フト云ハサレヘカラス。然ルニ國家ト雖トモ瓦ヲ化シテ黄金トナスコト能ハス又不老不死ノ仙樂ヲ作ルコト能ハサルヲ以テ其全能ニアラサルコト明ナレハナリ。若シ又全能トハ人爲ハカニテ成シ得ヘキ一切ハコトハ凡ソ之ヲ能クスルト云フ意義ナリトモハカ國家ハ又全能ニアラス現今人爲ニテ成シ能フ豫見アルコト、雖トモ現今國家ト稱スルモノニシテ成シ能ハサルコト妙カラサレハナリ。若シ又全能ハ其成サント欲スル所ハハハ之ヲ成スハ自由ヲ有シ法ハ制限ナシト云フ意義ナリトモハカ國家ハ又全能ニアラス。何トナレハ前ニ述ヘタル如ク單一ナル國家ニ於テハ國家其物ノ所爲ニ對シテ法ノ制限ナシト雖トモ聯邦國ニ於テハ國家ト稱スル者モ尙法ノ制限ヲ受ケ其成サント欲スル所ノモノハ必ス之ヲ爲スノ自由アリト云フコト能ハサレハナリ。此ノ如ク全能ノ意義ヲ種々ニ解釋シテ考フルモ國家ハ全能ナリト斷定スルコト能ハス。是我輩カ一般學者ノ如ク國家ハ全能ナリト云ハハル所以ナリ

今ヤ本章ヲ終ルニ盟ミ一ノ注意スヘキコトアリ。其ハ主權ト云フ文字ノ意是ナリ。何トナレハ世ノ公法學者多クハ國家ノ定義ヲ説明スルニ當リ主權ハ國家ノ要素ナルヤ否ヤニ付テ争フト雖モ余ハ主權ト云フ文字種々ノ意義ヲ有シ其意義ノ如何ニ依リテ或ハ國家ノ要素ナリト云フヘク或ハ要素ニアラスト云ヘリ從來此文字ノ用法一定セサルヲ以テ豫メ其意義ヲ定メス一概ニ其意義既ニ定リタル者ト考ヘ争論スルハ評論ノ正鵠ヲ誤リクルモノト信スルカ故ニ先ツ主權ト云フ文字ニ種々ノ意義用法アルコトヲ示サントス

主權(Souveraineté)ノ意義

主權即チ *Souveraineté* トハ佛語ニシテ元來拉典ノ *Supremitas* 即チ最高權力ト云フ文字ヨリ變化シ來リタルモノナリ *Supremitas* ト云フ文字ハ其始メ歐州ヲ統一セルローマ皇帝ノ專有物ニシテ皇帝以外ノモノハ何人ト雖トモ *Supremitas* 稱スルコトヲ得サリキ。然ルニ其後ローマ皇帝ノ權力漸ク衰ヘ遂ニ全歐州ヲ統一シタルローマ帝國ハ滅亡シ全歐羅巴ハ數多ノ國家ニ分裂セルニ至リ其分裂シタル各國ハ皆テローマ皇帝ノ專有タリシ名稱ヲ專用シテ自ラ *Supremitas*



ト稱セリ。就中佛國王ハ盛ニ此名稱ヲ用ヒ遂ニSupremitiesナル文字ハ變化シテSouverainetiトナリ全歐州ニ廣マレリ。我國ニ於テハ歐州ノ法律制度ノ輸入ト共ニ此文字モ亦輸入セラレ普通之ヲ譯シテ主權ト云ヘリ

主權ト云フ文字ノ沿革ハ大畧以上ニ陳ヘタルカ如シト雖其意義ハ時代ト學者トニ依リテ異ナリ其用法必シモ一定セサルヲ以テ今次ニ其用法ノ種類ヲ示スヘシ。

第一ノ用法 此用法ニ依ルトキハ最終ノ判決權ヲ主權ト云ヘリ。此用法ハ歐洲ノ中古ニ於テ頗ル行ハレタルモノニシテ最終ノ判決權ヲ有スル官府ヲ指シテ主權ヲ有スル官府ト云ヘリ。然ルニ此用法モ時勢ノ變遷ト共ニ次第ニ變化シ歐洲大陸ノ各國カ專制政治ヲ行ヒ中央集權ヲ尊フニ至リ第二ノ用法ヲ生セリ。

第二ノ用法 此用法ハ國家カ自己以外ノ權力ニ對シテ不羈獨立スル所ノ能力ヲ稱シテ主權ト云ヘリ。即チ或ル國家カ他ノ國權ニ服從セス又他ノ權力ニ羈束セラレスシテ獨立存在スル有様ヲ指シテ主權ヲ有スルモノト云ヘリ。然ル

ニ佛國ニ於テハ中央集權益強固トナリ專制政治愈盛ニ行ハレ君主ノ權力漸ク強大ナルニ至リ主權ナル文字ヲ他ノ國家ニ對スル場合ノミナラス君主カ自己ノ國民ニ對スル關係上ニ對シテ第三ノ用法ヲ生セリ

第三ノ用法 此用法ハ國內部ニ於ケル無制限ノ權力ヲ稱シテ主權ト云ヘリ。即チ君主カ其國民ニ對シテ自由自在ニ統治權ヲ行ヒ國內ニ於テハ何人ヨリモ制限セラレサル有様ヲ認テ君主ハ主權ヲ有スト爲シ此種ノ主權ヲ指シテ內主權ト云フ第二ノ用法ニ於ケル國家カ他ノ國家ニ對シテ不羈獨立ナル能力ヲ稱シテ外主權ト云フ内外主權ノ區別ヲ生セリ。此第三ノ用法ハ歐洲大陸ニ於テ君主專制ノ盛ナリレ頃ニ當リ頗ル行ハレタル用法ナリレカ第十九世紀ニ至リ大陸ノ各國憲法ヲ制定スルニ及ヒ國家ノ權力ハ法ノ制限ヲ受クヘキ理由ナシト雖トモ國家ノ權力ヲ掌握運用スル君主ハ憲法ノ條規ニ依リ働作セサルヘカテサルヲ以テ法ノ制限シ免レメト云フ說現ハレ此學說次第ニ大陸ノ立憲國ニ廣マリ主權ナル文字ヲ國家ニ就テ用フル場合ト君主ニ就テ用フル場合トニ依リテ其意義ヲ異ニシ主權ナル文字ニ二様ノ意義ヲ與ヘ遂ニ第四ノ用法ヲ



生セリ。

第四ノ用法、此用法ハ主權ナル文字ヲ國家ニ就テ用フル場合ト君主ニ就テ用フル場合トヲ區別シ國家ノ主權ト云フトキハ外部ニ對シテ他國ノ權力ニ服從セサル不羈獨立ノ權力ヲ云ヒ内部ニ對シテハ其國內ニ存在スル總テノ人格ノ上ニ位スル最高ノ權力ヲ云ヘリ即チ國家ニ就テ主權ナル文字ヲ用フルトキハ外主權内主權ヲ包括シテ之ニ與ヘタル總稱ナリ。君主ニ付テ主權ナル文字ヲ用フルトキハ國內ニ於ケル最高ノ權力ト云フ意味ナリ。國內ニ於ケル最高ノ權力ナルカ故ニ國權ハ下ニ在ルモノナリ。國權ノ下ニアルカ故ニ其權力ハ國權ニヨリテ與ヘラレ國權ニヨリテ左右制限セラレセノナリ。此意味ニ於ケル主權ト云フ文字ノ用法ハ現今數多ノ公法家ノ用フル所ノモノニシテ最モ普通一般ニ行ハルモノナリ然ルニ近來ニ至リ或ル一二ノ公法家ハ主權ナル文字ニ更ニ一種特別ノ意義ヲ與ヘ第五ノ用法ヲ生セリ

第五ノ用法、此用法ハ主權トハ國家ニ屬スル權力ハ總稱ナリトシ其權力ノ分量性質ヲ問ハス唯國家ニ屬スル權力ヲ總括シテ主權ト云ヘリ。故ニ此用法ニ

ヨレハ主權國ト云フモ必シモ他國ヨリ羈束制限セラレサル國家ノミヲ意味スルニ非ス或ル事柄ニ關シテハ他國ノ制限ヲ受クル國家モ多少ノ權力アルトキハ其權力ノ集合ヲ稱シテ主權ト云ヒ其國家ヲ主權國ト云フナリ。

要スルニ主權ナル文字ハ時代ニヨリ學者ニヨリテ種々ノ用法アルヲ以テ主權ナル文字ヲ用ヒント欲セハ必スヤ先ツ其如何ナル意味ニ於テ用ユルカヲ豫定セサルヘカラス。然ルニ世人動モスレハ主權ナル文字ニハ一定不易ノ意義アルカノ如ク考ヘ豫メ其意義ヲ定ムルコトナク濫ニ主權ナル文字ヲ用フルヲ以テ學問ノ研究上種々ノ不都合ヲ生シ若クハ誤解ヲ來セリ。故ニ余ハ茲ニ主權ナル文字ニ付テ種々ノ用法アルコトヲ諸君ニ吹聴シ以テ諸君ノ注意ヲ喚起ス

### 第二章 國家ノ種類

國家カ統治權ヲ行フ形式及ヒ國家組織ノ異同ヲ標準トシテ學者通常國家ノ種類ヲ區別スルヲ以テ余モ亦此例ニ倣ヒ國家ノ種類ナルヲ説明スヘシ



### 第一節 國家カ統治權ヲ行フ形式ヲ標準トシテ區別シタル國家ノ種類

國家カ統治權ヲ行フ形式ヲ標準トシテ國家ノ種類ヲ區別スルトキハ大約四種トナル。即チ

- 第一 獨裁君主制ノ國家
- 第二 立憲君主制ノ國家
- 第三 貴族制ノ國家
- 第四 民主制ノ國家

第一 獨裁君主制ノ國家  
 獨裁君主制ノ國家トハ君主カ統治權ヲ總攬シ己ノ自由意思ニ依リテ之ヲ行ヒ法ノ制限ナキモノヲ云フ。獨裁君主制ノ國家ニ於テハ君主ハ自己自由ノ意思ニヨリ統治權ヲ行ヒ法ノ制限ナキモノナルカ故ニ法ノ存廢變更ハ一ニ君主ノ自由意思ニ歸シ君主ハ隨意ニ法ヲ作り又隨意ニ法ヲ廢除スルコトヲ得。君主獨裁制ノ國家ニ於ケル君主ノ行爲ニ對シテ法ノ制限ナシト云フコトハ實

ニ法ノ存廢變更ニ關スルコトノモ止ラス統治權執行ニ關シテ總テ法ノ制限ナク君主ハ自己ノ自由意思ニヨリ隨意ニ之ヲ行ヒ得ルモノナリ。然リト雖トモ一般世人ノ考アルカ如ク君主獨裁制ノ國家ニ於テハ君主ハ其自由意思ニヨリテ隨意ニ統治權ヲ行フカ故ニ其統治ハ必ス壓制ナリ。君主獨裁政体ハ壓制体ナリト云フヘカラス。君主獨裁政体必スモ壓制政体ニアラス。君主能ク國民ノ利益ヲ計リ其幸福ヲ増進スルコトヲ勉ムルトキハ其統治ハ壓制ニアラス。壓制ト否トハ統治權ヲ行フ實際ノ方法ノ如何ニ存スルモノナリ。政体ノ如何ニヨルモノニ非ス只獨裁君主制ノ國家ニ於テハ君主ノ行爲ヲ制限スル者ナキヲ以テ君主其人ヲ得ヤレトキハ事實上壓制ニ傾キ易シト云フニ過キサルナリ。

君主カ君位ヲ繼承スル形式ハ異同ニヨリ、獨裁君主制ノ國家ヲ更ニ區別シテ世襲獨裁君主制ノ國家及ヒ撰舉獨裁君主制ノ國家ノ二トナス。

(甲) 世襲獨裁君主制ノ國家  
 世襲獨裁君主制ノ國家トハ君位ハ繼承ヲ血統ハ順序ニヨリ行フ獨裁君主制



ハ、國家ヲ云フ。血統ノ順序ハ各國ノ憲法若クハ皇室典範ノ規定スル所ニヨリ定マルモノニシテ各國必スシモ同一ナラス同一ノ血統ヨリ出ルモノハ男子ト女子トヲ問ハス皆一定ノ順序ニヨリテ君位ヲ繼承スルノ能力ヲ認メタルモノアリ。或ハ男子ニ優先ノ地位ヲ與ヘ女子ハ男子ナキトキニ限り君主ノ繼承ヲ許スアリ。故ニ女子ハ全ク除外シ去リ君主ノ繼承ハ男子ニノミ限リタルモノアリ。然リト雖トモ何レモ皆ナ同一血統ヲ基礎トシ各國ノ憲法若クハ皇室典範ニ於ケル規定ノ順序ニヨリ君位ヲ繼承スルモノナリ。

(乙) 選舉獨裁君主制ノ國家

撰舉獨裁君主制ノ國家トハ撰舉ニヨリテ君位ノ繼承ヲ行フ獨裁君主制ノ國家ヲ云フ。撰舉ノ形式ハ各國ノ君主撰舉ニ關スル規定ニヨリ異ナルモノニシテ或ハ貴族互撰シテ君位ノ繼承ヲ定ムルアリ或ハ互撰ニヨラス別種ノ人ヲ撰舉シテ君主トナスコトアリ。撰舉獨裁君主制ノ國家ハ古ハ往々存在セル事實アルモ現今ニ至テハ歷史上種々ノ理由ヨリシテ存在セス

第二 立憲君主制ノ國家

立憲君主制ノ國家トハ君主カ統治權ヲ總攬シ其執行ニ關シテハ法ハ制限ヲ受ケルモノヲ云フ。主憲君主制ノ國家ニ於テモ獨裁君主制ノ國家ニ於テモ統治權ヲ總攬スルモノハ君主一人ナリ。君主カ統治權總攬者ナリトノ點ニ於テハ二者異ナル所ナシ。然リト雖トモ立憲君主制ノ國家ニ於ケル君主ハ其總攬セル統治權ヲ行フニ當リテハ法ノ制限ヲ受ケ自己ノ自由意思ニヨリテ隨意ニ之ヲ行フコト能ハス。立憲君主制ノ國家ニ於ケル君主ハ統治權ノ執行ニ關シテ法ノ制限ヲ受ケルカ故ニ自己ノ隨意ニ法ノ存廢變更ヲナスコトヲ得ス。或ル種類ノ法ヲ廢除變更セントスルトキハ帝國議會ノ協贊ヲ要スト云フカ如キ法ノ制限アリテ法ノ制限ハ單ニ法ノ存廢變更ニ關シテ存スルノミナラス他ノ統治權ノ執行ニ關シテモ亦存在スルモノアリ。例之司法權ハ必ス裁判所シテ之ヲ行ハシメ君主自ラ裁判判決シテ司法權ヲ行フ能ハスト云フカ如キ是ナリ。

第三 貴族制ノ國家

貴族制ノ國家トハ國民中優等ノ地位ヲ占ムル者即チ貴族ハ數人カ共同シテ統治權ヲ總攬シ之レヲ行フモノヲ云フ。此國家制度ニ於テハ統治權ヲ總攬スル



者ハ貴族ナルコトヲ要ス。換言スレハ國民ト同等ノ地位ニ在ラスシテ普通國民ヨリ優等ノ地位ヲ占ムル者ナルコトヲ要ス。故ニ此制度ノ國家ニ於テハ國民ノ階級ヲ分ケ貴族及ヒ普通國民トナシ貴族普通國民ノ有セサル種々ノ特權ヲ有シ頗ル高等ノ地位ヲ占ムルモノナリ。又此制度ニ於テハ數人ハ貴族カ共同シテ統治權ヲ總攬スルコトヲ要ス。若シ一人ノ貴族ノミカ之ヲ總攬スルトキハ其國家ハ貴族制ノ國家ニ非スシテ君主制ノ國家トナリ其ノ統治權執行ニ關シテ法ノ制限アルト否トニヨリ或ハ立憲君主制ノ國家トナリ或ハ獨裁君主制ノ國家トナル。斯ノ如ク貴族制ノ國家ニ於テハ數人ノ貴族カ共同シテ統治權ヲ總攬スルモノナルカ故ニ其共同体ノ一員トシテ現ハルトキハ其貴族ハ統治權總攬者ノ一分子則チ治者ニシテ臣民即チ被治者ニ非サレトモ共同体ノ一員タル資格ヲ離レ一私人トシテ現ハルトキハ其貴族ハ臣民即チ被治者ノ地位ヲ有スル者ニシテ共同体ニ對シテ服從ノ地位ニ立ツモノナリ。彼貴族制ノ國家制度ハ歐洲ノ古代及中世ニ於テハ往々行ハレタルモノナリ。彼ノスバルタ人カラセデモニール及ヒペリエーケン人ト戰ヒ之ヲ征服シタル時

ニ當リスバルタ人ハ是等ノ人種ヲ非常ニ輕侮冷遇シ兩者ノ間ニ一種ノ階級ヲ作リスバルタ人ヲ以テ貴族ト爲シ其征服セラレタル人種ヲ以テ普通國民ト爲シ數人ノスバルタ人共同シテ其征服シタル人種ヲ支配セシカ如キ其一例ナリ。其他又クレイタアカルタコイ及ヒ古代羅馬ノ貴族政治ノ如キハ古代ニ於ケル貴族制度ノ實例ノ著シキモノナリ。中世ニ於テハ獨乙國ニ於テ貴族制度ニ關スル實例アリント雖亦十四世紀及ヒ十五世紀ノ頃ニ至リ民主制ノ國家ニ變シ貴族制ノ國家制度ハ現今其實例ヲ見サルニ至レリ。蓋シ貴族制ノ國家ニ於テハ或種類ノ貴族ノ權力強大トナルトキハ君主制ノ國家ニ變シ易ク又貴族ニ對スル國民ノ權力強大トナル時ハ民主制ノ國家ニ變シ易キヲ以テ世ノ盛衰變化ト共ニ或ハ君主制ノ國家ト爲リ或ハ民主制ノ國家ト變化セシ者ナルヘシ。

第四 民主制ノ國家

民主制ノ國家トハ國民全体カ共同シテ統治權ヲ總攬シ之ヲ行フモノヲ云フ。故ニ民主ノ國家ニ於テハ統治權ヲ總攬スルモノハ國民全体ナルコトヲ要ス。即チ國民全体ニ非スシテ君主若クハ國民中或種類ノ人々ニ屬スルトキハ或ハ



君主制ノ國家ト爲リ或ハ貴族制ノ國家トナリ民主制ノ國家ニ非ス。民主制ノ國家ニ於テハ必ス國家全体カ統治權ヲ總攬スルコトヲ要ス。然レトモ茲ニ所謂國民全体カ統治權ヲ總攬スト云フハ法律上ヨリ之ヲ云フモノニシテ事實上ヨリ之ヲ云ヘルニ非ス。或國家ノ國法上ニ於テ統治ノ總攬者ハ國民全体ナリトノ法律上ノ解釋生スルトキハ事實上實際國政ニ參與シ統治權ヲ總攬スル者ハ國民中ノ少數ナルモ其國家ハ民主制ノ國家タルヲ妨ケス。故ニ民主制ノ國家ト云フモ其國ノ老幼男女貧富貴賤ヲ問ハス苟モ國民タルモノハ皆悉ク政務ニ參與スヘキモノナリト云フノ必要ナシ。事實上是等ノ者カ悉ク政務ニ參與セス其少數ノ者ノミ政務ニ參與レテ統治權ヲ總攬スル時ト雖トモ國法ニ於テ此少數者ヲ以テ國民全体ヲ代表スルモノト認メ其參與總攬ハ國民全体ノ參與總攬ナリトスルトキハ其國家ハ民主制ノ國家ナリ。

斯ノ如ク民主制ノ國家ト云フモ必スシモ事實上國民全体カ政務ニ參與シ統治權ヲ總攬スルノ必要ナシ。或ハ國民全体カ實際參與總攬スルコトアリ。或ハ

國民ヲ代表スル一部分ノ一人カ參與總攬スルコトアリ。故ニ事實上上ヨリ見ルトキハ總攬ニ直接ト間接トノ區別アリ。

直接總攬トハ國民全体カ實際政務ニ參與シ直接ニ統治權ハ總攬執行ハ任ニ當ルモノヲ謂フ。

間接總攬トハ國民カ或ル種類ノ人ヲ撰舉シ其人ヲ以テ自己ハ代表者トナシ其代表者ニ依リテ間接ニ總攬執行スルモノヲ云フ。

但シ直接總攬ノ場合ト雖モ老幼婦女ハ悉ク直接ニ參與總攬スルモノニ非ス。此等ノ者ハ家長若クハ家族中ニ於ケル丁年ノ男子ニヨリテ代表セラレハコトヲ常例トスルモノナリ。

直接總攬ノ場合ハ昔ノゲルマン人種ノ國家制度ニ就テ數々見ル所ノ實例ナレトモ今日ノ如ク一國ノ人口非常ニ増加シタル時代ニ於テハ直接總攬ト云フコト到底實行シ得サルモノナリ。故ニ現今民主制ノ國家ニ於テハ國民中ヨリ若干ノ代表者ヲ撰出シ其代表者ヲシテ直接總攬執行ノ任ニ當ラシメ國民全体ハ間接ニ統治權ヲ總攬スルノ方法ヲ取レリ。



### 第二節 國家ノ構成分子ヲ標準トシテ區別シタル國家ノ種類

國家ノ構成分子ヲ標準トシテ國家ノ種類ヲ區別スルトキハ大凡次ノ二種トナル。

第一 單體國家 (Einheitsstaat)

第二 複體國家 (Staatenstaat)

第一單體國家 單體國家トハ其構成分子中ニ國家ヲ含マサル國家ニシテ日本支那英吉利佛蘭西等ノ如キ是ナリ。是等ノ國家ハ其構成分子中ニ國家ト稱スルモノヲ包含スルコトナシ。

第二複體國家 複體國家トハ其構成分子中ニ國家ヲ包含スルモノヲ云フ。例ヘハ獨乙帝國北米合衆國シユワイツ聯邦國ノ如キ是ナリ。是等ノ國家ニ於テハ數多ハ國家カ結合シテ更ニ一ハ新ナル國家即チ複體國ヲ組織シ其新ナル國家ヲ組織シタル數多ハ國家之ヲ支分國ト稱スモ亦國家タル性質ヲ失ハサルモハナリ。但シ複體國ト支分國トハ各其管轄事件ヲ分割シ複體國ノ憲法ニ於テ

列舉シタル事件ニ關シテハ複體國其統治權ヲ行ヒ支分國及支分國ノ臣民ハ其統治權ニ服從シ支分國ハ複體國ノ憲法ニ於テ複體國ノ管轄ニ屬セシメサルノ一切ノ事件ニ關シテ其統治權ヲ行フヘキモノトナセリ。例ヘハ獨乙帝國ハ帝國憲法第四條ニ其他ノ條文ニ於テ帝國ノ管轄ニ屬セシメタル事件ニ關シテハ廿五ノ支分國及其臣民ヲ統治シ廿五ノ支分國ハ是等以外ノ事件ニ付テ其臣民ヲ統治スルカ如キ是ナリ。

斯ノ如ク複體國ノ制度ニ於テハ國家ノ上ニ國家アリト云フ現象ヲ呈シ又一國臣民ニシテ二個ノ國家ヲ戴クヲ以テ吾人カ從來國家ト稱シ來リシ單體國家トハ大ニ其趣ヲ異ニシ從テ從來ノ國家的觀念ヲ以テ此現象ヲ説明スルコト能ハス茲ニ於テ歐洲ノ公法學者ハ皆爭フテ之レカ説明ヲ試ミ或ハ複體國ノミカ國家ニシテ所請支分國ハ國家ニアラスト云フ者アリ。或ハ支分國ノミカ國家ニシテ複體ハ國家ニアラスト云フモノアリ。或ハ複體國及支分國共ニ國家ナリト云フ者アリテ其學說未タ一定セズ。此種類ノ國家制度ハ現今公法學上ニ於テ最モ研究ヲ要スヘキモノナルヲ以テ余ハ此ノ如キ國家制度アルコトヲ示シ



此制度ニ關スル歐洲公法學者ノ重ナル學說ヲ紹介シ且ツ之ヲ批評シ諸君ノ研究材料トナスヘシ。  
複體國ノ制度ニ關スル有名ナル説明トシテ第一ニ擧クヘキモノハワイツ氏ノ學說ナリ。

第一ワイツ氏ノ學說　ワイツ氏ノ學說ハ千八百七十一年ノ獨乙帝國憲法制定ノ當時マテハ盛行ナハレタルモノニシテ一時ハ公法學者ノ全般ヲ風靡セシメタルモノナリ。

ワイツ氏ハ最高無制限ノ權カト云フ意味ニ於テ主權ナル文字ヲ用ヒ主權ヲ以テ國家ノ要素トナシ主權ノ分割ト云フコトヲ基礎トナシテ複體國ノ性質ヲ説明シテ曰ク複體國ノ制度ニ於テハ複體國及ヒ各國共ニ各其權限ニ屬スル事柄ニ關シテ主權ヲ有シ主權ハ複體國若クハ各國ハ一方ニハミ屬セスシテ二者各其權限ハ範圍ハ内ニテ主權ヲ有ス。換言スレハ複體國ノ制度ニ於テハ主權ヲ分割シ複體國及ヒ各國カ各一部分ハ主權ヲ有スルモノナリ。複體國ノ有スル主權ハ一部分ハ主權ナルニハ相違ナケレトモ一部分ニテモ主權ハ主權ナル

ヲ以テ複體國及ヒ各國ハ主權ヲ有スルモノナリ。此ハ如ク主權ヲ有シ國家ハ要素ニ缺クル所ナキヲ以テ二者共ニ國家ナリト。

此説明ハ巧ナルカ故ニ輕卒ニ考フルトキハ適當ナルカ如キ觀アリト雖トモ其實似而非ナルモノナリ。若シワイツ氏ノ如ク主權ナル文字ヲ最高無制限ノ權カト云フ意味ニ於テ用ユルトキハ主權ハ分割ト云フコトハ謂ヒ能ハサル所ノモノナリ。何トナレハ假リニ主權ヲ分割シテ或ル事柄ニ付テハ甲者主權ヲ有シ他ノ或ル事柄ニ關シテハ乙者主權ヲ有スルト云フトキハ甲者ハ乙者ノ權力ノ範圍ニ立入ルコトヲ得ス乙者モ亦甲者ノ權力ノ範圍ニ立入ルコトヲ得ス。兩者互ニ消極的ニ制限ヲ受クルヲ以テ分割セラレタル權力ハ無制限ノモノニアラス。無制限ノモノニ非サルカ故ニ氏ノ所謂主權ニアラス。氏ノ所謂主權ハ分割ト云フ事實ト同時ニ消滅スルモノニシテ主權ノ意義ト分割ト云フ事柄トハ兩立シ能ハサルモノナレハナリ。此ノ如ク主權ト分割トハ兩立セサルヲ以テ氏ノ所謂一部分ノ主權ナルモノハ主權ニアラス。一部分ノ主權カ主權ニアラサルトキハ複體國及ヒ各國ハ主權ヲ有セス主權ヲ有セサルトキハ氏ノ論法



ニ從ヘハ國家ノ國家タル要素ヲ欠クヲ以テ複體國及ヒ各國ハ國家ニアラスト云ハサルヘカラス。

然ルニ氏ハ主權ヲ最高無制限ノ權力ト解釋シ此主權ヲ國家ノ要素トナシタルニモ拘ハラヌ主權ノ分割ヲ基礎トナシ複體國及ヒ各國ニ一部分ノ主權ナルモノヲ認メ二者共ニ主權ヲ有スルカ故ニ國家ナリト云フハ自家撞着モ亦甚クシキモノナリ。ワイツ氏ノ説明ニ巧ミナレトモ以上ニ述ヘタルカ如キ理由アリテ以テ正當ナリト云フコト能ハス。

第二ザイデル氏ノ説　ザイデル氏モ亦ワイツ氏ノ如ク最高無制限ト云フ意味ニ於テ主權ナル文字ヲ用ヒ主權ヲ以テ國家ノ國家タル要件ト認メタリ。然レトモザイデル氏ハ主權ノ分割ヲ基礎トナシテ複體國ノ制度ニ關スル説明ヲ試ミタルリイツ氏ノ説明ニ誤リアルコトヲ看破シ更ニ他ノ論法ニヨリテ此制度ニ關スル説明ヲナシテ曰ク主權ハ最高無制限ノ權力ト云フ意味ニ於テ用ユルトキハ主權ノ分割ナルコトハ論理上不能ナリ。分割シタル主權ハ最高無制限ノ權力ニアラス最高無制限ノ權力ニアラサレハ主權ニアラサルヲ以テ分割セ

ラレタル主權ハ主權ニアラス。故ニワイツ氏ノ如ク複體國モ主權ヲ有シ構成分子タル各國モ主權ヲ有スト云フハ誤リナリ。主權若シ複體國ニアルトキハ構成分子タル各國ハ主權ヲ有セス各國カ主權ヲ有スルトキハ複體國ハ主權ヲ有セス兩者並行セステ却テ相拒絕スルモノナリ。而シテ主權ハ國家ノ要素ナルカ故ニ二者ハ中其孰レカ國家ニシテ他ノ一ハ國家ニアラズ。要スルニ國家ノ上ニ國家アリトシテハ最高無制限ノ權力ノ上ニ最高無制限ノ權力アリト云フ考ニシテ論理ニ協ハセルモノナルヲ以テ國家ノ上ニ國家アリト云フ觀念ハ到底認メルコトヲ得サルモノナリ。世人カ複體國ノ構成分子タル各國ト稱スルモノハ地方團體ニアラサレハ其上ニ國家ヲ裁カサル單純ナル國家ナリ。獨乙帝國ニ付テ例ヲ掲クレハ普魯西其他ノ二十五ヶ國ハ國家ナルトハ獨逸帝國ハ國家ニアラス。若シ獨乙帝國カ國家ナルトキハ二十五ヶ國ハ國家ニアラス。帝國ト各國ト共ニ國家タルノ性質ヲ有スルコト能ハス。而シテ帝國憲法及ヒ各國ノ憲法ヲ見ルトキハ二十五ヶ國ヲ以テ國家ナリト明ラカニ記載セルヲ以テ各國カ國家ニシテ帝國ハ國家ニアラス國家ノ同盟ナリ。國



家相互ノ條約ニヨリテ存在スル條約的關係タルニ止ル。

以上ハサアテル氏ノ説明ノ大要ナリ。此説明ハ其初メ南カロリナノジョンカ  
ルホーシナルモノカ北米合衆國ト其構成分子タル各國トノ關係ニ就テ主唱セ  
レカ其後獨乙帝國ノ組織セラル、ニ及ンテザイデル氏一層其主義ヲ布行擴張  
シ之ヲ獨乙帝國ト各國トノ關係ノ上ニ移シ川ロクリ。

主權ヲ以テ國家ノ要素トナシ主權ハ國家ニ缺クヘカラサルモノナリト云フコ  
トヲ確乎トシテ動カスヘカラサルノ法理ナリトスルトキハザイデル氏ノ説明  
ハ敢テ不當ナルニアラス。然ルニ前ニ述ヘタルカ如ク主權ハ國家ノ要素ニア  
ラサルカ故ニザイデル氏ノ説明ハ正當ナリト云フコト能ハス。今爰ニザイデ  
ル氏ノ説明ヨリ生スル不都合ナル點ヲ示シ主權ハ國家ノ要素ナリト云フ主義  
ヲ以テ到底現今ノ國家制度ヲ説明シ能ハサル理由及ヒザイデル氏ノ説明正當  
ニアラサル理由ヲ述ヘン。

第一理由　ザイデル氏ノ如ク最高無制限ノ權力(主權)ヲ以テ國家ノ要素ナリト  
ナストキハ氏カ認メテ國家ナリト稱スル普魯西、バヴアリヤ。サキリン等ノ二

十五ノ獨乙帝國ニ於ケル各聯邦國ハ國家ニアラスト云ハサルヘカラス。何ト  
ナレハ獨乙帝國憲法中ニ於テ帝國ノ權限ニ屬スルモノナリト明言シタル事件  
ニ關シテハ二十五個國ハ其權力ヲ行フコト能ハスシテ獨乙帝國ノ爲メニ制限  
セラレ帝國ノ權力ニ服從スルモノニシテ最高無制限ノ權力ヲ有セサレハナリ。  
此ノ如クザイデル氏ノ説明ニ從ヒ主權ヲ以テ國家ノ要素ナリトナストキハザ  
イデル氏カ認メテ國家ナリト稱シ且ツ又憲法上國家ナリト記載シタルモノモ  
國家ニアラスト云フ論結ヲ生ス。是レ主權ハ國家ノ要素ニアラサル証據ニシ  
テザイデル氏ノ説明正當ナリト云フ能ハサル所以ナリ。

第二理由　若シザイデル氏ノ如ク獨乙帝國ヲシテ國家ニアラスシテ國家ノ同  
盟即チ國家相互ノ條約的關係ナリト云フトキハ其憲法及ヒ其他ノ法律ハ各國  
ノ合意一致ニヨリテ定メタル條約即チ契約ノ文言ナリト云ハサルヘカラス。  
帝國憲法及ヒ法律ヲ以テ契約文トナストキハ契約ハ其變更ニ關シテ如何ナル  
條件ヲ付スルモ當事者ノ合意一致ニヨリテ其根本ヨリ廢除變更スルコトヲ得  
ルモノナレハ帝國ノ憲法及ヒ其他ノ法律ハ當事者タル各國カ合意一致スルト



キハ隨意ニ變更廢除スルコトヲ得。其合意ノ成立シタル瞬間時ニ於テ當然廢除變更セラレタリト云ハサルヘカラス。此論結ハ獨乙帝國ヲ以テ國家ニアラスシテ國家相互ノ條約的關係ナリト云フトキハ當然生スル所ノモノナリ。今獨乙帝國ノ憲法及ヒ法律ハ果シテ各國ノ合意一致ニヨリテ廢除變更セラレ、ヤト云フニ然ラス。假令各國ニ其廢除變更ヲ合意一致スルモ憲法及ヒ法律ハ憲法ノ上ニ規定セル一定ノ手續ヲ經テ廢除變更スルニアラサレハ依然トシテ元ノ儘ニテ存在ス。

此ノ如ク獨乙帝國ノ憲法及ヒ法律ハ各國ノ一致ノミヲ以テ當然廢除變更シ能ハスト云フハ獨乙帝國カ國家ノ同盟ニアラスシテ國家ナルコトノ證據ナリ。是レザイヘル氏ノ説明ハ正當ニアラスト云フ所以ナリ。主權ト云フ文字ヲ最高無制限ノ權カト解釋シ主權ヲ以テ國家ノ要素ナリトナストキハ以上陳ヘタルカ如ク種々ノ點ニ於テ論理ノ撞着ヲ生シ貫徹シタル法理上ノ解釋ヲナスコト能ハサルヲ以テ近頃ニ至リラバンドモール。ゲルベル。ベツル。マイエル。シユルツェー。エリキック。リーベ。ロージ。プリー。ステーベル。

等ノ諸大家ハ主權ハ國家ノ要素ニアラスト斷言シ從來國家ト國家以外ノモノトヲ區別スル唯一ノ標準ト爲シ來リシ主權ナルモノ、外ニ於テ其區別ノ標準トナルヘキモノ見出サシコトヲ勉メ若シ主權ヲ以テ國家ノ要素トナサルトキハ何ゾ標準トシテ國家ト府縣郡市町村ノ如キ地方團體トヲ區別シ能フヤト云フコトヲ研究シ種々ノ學說ヲ出セリ

今其學說中重要ナルモノヲ示シ讀者カ研究ノ材料トナサン。讀者ハ是等ノ學說ヲ參考シテ正確ナル研究ヲ逐ケラレンコトヲ希望ス。

#### 第一、エリキック氏ノ學說

エリキック氏ハ無監督ノ權カト云フコトヲ以テ國家ニ存スル唯一ノ特性トナシ、此權カノ有無ニヨリテ國家ト他ノモノトヲ區別センコトヲ試ミ、タリ。

氏ノ説明スル所ニ據レハ複體國及ヒ其構成分子タル各國ハ各其權限ノ範圍内ニ於テハ他人ノ監督ヲ受ケスシテ隨意ノ行爲ヲ爲シ得ルノ權カ即チ無監督ノ權カヲ有スルヲ以テ二者共ニ國家ナリト云ヒ更ニ此論理ヲ布行シテ國家ト地方團體トノ區別ヲ説明シ國家ハ無監督ノ權カヲ有スレトモ地方團體ハ此權カ



ヲ有セス國家ノ下ニ立チ其監督ヲ受ケ一々國家ノ指揮命令ヲ受ケルモノナリ。  
 無監督ノ權力ハ國家ニ存在スル唯一ノ特性ニシテ國家ト他ノモノトヲ區別ス  
 ル標準ハ爰ニ存スルモノナリト陳ヘタリ。  
 然レトモ余輩ノ知ル所ニ由レハ地方團體ト雖トモ府縣制郡制市區村制等ノ法  
 律ニ於テ許サレタル權限ノ範圍内ニ於テハ自己ノ自由意思ニヨリテ處分ヲ爲  
 シ國家ノ監督ヲ受ケサル事柄數多アルヲ以テ地方團體モ亦無監督ノ權力ヲ有  
 スルカ故ニ此權力ノ有無ハ國家ト地方團體トヲ區別スル標準トナスニ足ラサ  
 ルモノナリト信ス。

第二ブリー氏ノ學說

ブリー氏ハ管轄事件ニ制限アルト否トニヨリテ國家ノ性質ヲ說明シ。且ツ國  
 家ト地方團體トヲ區別シテ曰ク「國家ハ如何ナル事件ヲ以テ自己ノ事業トナス  
 ヘキヤ否ヤハ隨意ニ自ラ之レヲ定ム得ルモノニシテ其欲スル所ハ如何ナル事  
 柄ニテモ總テ之レヲ自己ノ管轄事件トナスコトヲ得ルモノナリ。然レトモ地  
 方團體ハ之レニ反シテ其管轄スヘキ事件ハ法律又ハ命令ニヨリテ定リタル或

ル種類ノ事件ニ限ルモノニシテ自ラ其管轄セントスル事件ノ範圍ヲ擴張シ其  
 欲スル所ハ悉ク之レヲ管轄セント欲スルモ能ハス此ノ如ク國家ノ管轄事件ニ  
 ハ制限ナシト雖トモ地方團體ノ管轄事件ニハ制限アリ其制限ノ有無ハ國家ト  
 地方團體トヲ區別スル一ノ標準ナリト云ヘリ。

ブリー氏ノ學說モ亦正當ニアラス。氏ハ管轄事件ニ對スル制限ノ有無ヲ以テ  
 國家ト地方團體トヲ區別シ得ルカ如ク論スレトモ是レ決シテ區別ノ標準トナ  
 ラス。何トナレハ氏カ認メテ國家ト稱スル獨乙帝國及ヒ各國ハ共ニ其管轄事  
 件ニ付テ制限ヲ有スルモノニシテ其欲スル處ノ一切ノ事件ヲ悉ク自己ノ管轄  
 ニ屬セシメント欲スルモ能ハサレハナリ。加之氏ノ如ク管轄事件ニ無制限アリ  
 ルト否トヲ標準トシ制限ナキモノハ國家ニシテ制限アルモノハ地方團體ナリ  
 ト云フトキハ氏カ自ラ認メテ國家ナリト云フ獨乙帝國及ヒ各國ハ其管轄事件  
 ニ制限アルヲ以テ二者共ニ國家ニアラスシテ地方團體ナリト云フノ論結ヲ生  
 シ自殺論鋒タレヲ免レサレハナリ。

第三 プロイス氏ノ學說

憲法



プロイス氏ハ領地主權ト云フコトヲ基礎トシテ國家ノ性質及ヒ國家ト地方團體トノ區別ヲ説明セリ  
 氏ノ説明ニヨレハ領地主權トハ領地ヲ自由ニ擴張シ或ハ縮少スルハ權カニシテ此權カヲ有スルモノハ國家ナリ。此權カナキモノハ他ニ如何ナル權カヲ有シ如何ナル狀況ニアルモ國家ニアラス。獨乙帝國ニ就テ之レヲ云ヘハ獨乙帝國ハ憲法ノ改正ニヨリテ自由ニ其領地ヲ伸縮スルノ權カヲ有スルヲ以テ二者共ニ國家ナリ。然レトモ府縣群市町村ノ如キハ其管領スル區域ヲ伸縮セントスルトキニハ必ス自己ノ上ニ位シ監督ノ權カヲ有スル國家機關ノ認許裁決ヲ要シ自己ノ自由意思ヲ以テ隨意ニ其伸縮ヲ行ナヒ能ハサルモノナリ。即チ地方團體ニ領地主權ヲ有セス領地主權ハ國家ノ本質ニシテ領地主權ノ有無ニヨリテ國家ト地方團體トハ判然區別セラル、モノナリト論シタリ。  
 予ノ考フル所ニヨレハ此說モ亦正當ニアラス。プロイス氏ハ獨乙帝國ヲ構成スル各國ハ自由ニ其領地ヲ伸縮スルノ權カヲ有スルヲ以テ領地主權ヲ有スルモノナリト主張セラレタリト雖モ此見解ハ誤リタルモノナリ。獨乙帝國ヲ構

成スル各國ハ此權カヲ有セス。何トナレハ獨乙帝國ハ各國ノ領地ヨリ成立スルカ故ニ各國領地ノ變更ハ其結果トシテ獨乙帝國ノ領地變更ヲ惹起スルコトアリ。而シテ帝國領地ノ變更ハ國家憲法ノ變更ヲ以テスルニ非サレハ爲シ能ハス。帝國憲法ノ變更ハ帝國之レヲ行ヒ各國之ヲ左右スルコト能ハス。故ニ各國ニ於テ其領地ヲ變更スルノ結果トシテ帝國領地ノ變更ヲ惹起スル場合ニハ各國ハ帝國ノ爲メニ制限ヒラレテ隨意ニ其變更ヲ企ツルコト能ハサレハナリ  
 斯ノ如ク領地主權ヲ基トシテ區別ノ標準ヲ立ツルトキハ各國ハ領地主權ヲ有セサルヲ以テ國家ニアラスト云ハサルヘカラス。然ルニ獨乙帝國憲法及ヒ各國ノ憲法ニ於テ各國ヲ以テ明ラカニ國家ナリト規定スルカ故ニ氏ノ議論ハ國法ノ明文ニ抵觸ス。是レ氏ノ學說ノ正當ニアラザル所以ナリ。  
 第四 ヘーネル氏ノ學說  
 ヘーネル氏ハ以上ニ陳ヘタルカ如キ諸國ニテハ到底複體國ノ性質ヲ説明スルニ足ラサルモノナリトシ其説明ノ方法ヲ一變シ從來諸學者カ獨乙國家及ヒ構成分子タル各國ヲ以テ國家ナリトナシタル學說ニ正反對ノ説明ヲ試ミ獨乙國



國、モ、國、家、ニ、ア、ラ、ス、構、成、分、子、タ、ル、各、國、モ、亦、國、家、ニ、ア、ラ、ス、國、家、ト、各、國、ト、ヲ、包、含、ス、  
所、ノ、組、織、全、体、カ、國、家、ナ、リ、ト、云、ヘ、リ、。

此說ハ從來ノ公法家カ取リタル說明ト全ク異ナリタルヘー子ル氏獨得ノ學說  
ニシテ甚ク珍奇ナルモノナリ。

然レトモ徒ラニ珍奇ナルノミニシテ正當ニラアス。何トナレハ獨乙國家憲法  
及ヒ各國ノ憲法中ニ於テ既ニ各國ヲ國家ナリト明言シタルヲ以テ如何ニ氏ノ

說明ハ巧妙ナルニモセヨ國法ノ明文ヲ抹殺スル能ハサレハナリ。  
要スルニ以上ノ諸說ハ己ニ陳ヘタルカ如ク種々ノ欠點ナルヲ以テ到底複體國

ノ制度ニ關シ論理ノ貫徹シタル說明ト爲ス能ハス。  
然ルニ予カ國家ノ定義ノ章ニ於テ陳ヘタルカ如ク固有ノ統治權ヲ有スルト否

トヲ以テ說明ノ標準トナストキハ國體國モ構成分子タル各國モ共ニ固有ノ統  
治權即チ法ニヨリテ與ヘラレサル統治權ヲ有スルヲ以テ二者共ニ國家ナリト

稱スルコトヲ得。又他ノ一方ニ於テハ固有ノ統治權ヲ有セス。彼ノ法ニヨリ  
テ與ヘラレタル權力ノミヲ有スル地方團體ト國家トノ間ニ判然タル區別存在

シ國法ノ明文ニモ概觸スルコトナク又明ラカニ國家ト國家ニアラサヌモノトヲ  
區別スルコトヲ得。故ニ予ハ固有ノ統治權ト云フコトヲ標準トナシ復體國モ  
國家ナリ構成分子タル支分國モ亦國家ナリ固有ノ統治權ハ國家ノ國家タル本  
性ニシテ此權力ノ有無ハ國家ト國家ニアラサルモノト區別スル唯一ノ標準  
ナリト云フコトヲ宣言シテ此章ノ終結トナサントス。

### 第三章 憲法ノ定義

普通學者法律ヲ大別シテ公法及私法ノ二トナス。而シテ憲法ハ公法ニ屬ス  
ルモノナリトナスヲ以テ今憲法ノ如何ナルモノナルヤヲ知ラント欲スルトキ  
ハ先ツ公法ノ如何ナルモノナルヤヲ明ニヒサルヘカラス。故ニ爰ニハ先ツ公  
法ノ性質ヲ明ニスルカ爲メニ公法ト私法トノ區別ヲ說明シ予ノ公法ト稱スル  
モノニ關スル觀念ノ大異ヲ諸君ニ吹聴シ然ル後ニ憲法ノ性質ヲ說明スヘシ。

#### 第一節 公法ト私法トノ區別

公法ト私法トノ區別ハローマニ始レリ。ローマノ法律家カ法律ヲ大別シテ公  
法私法ノ區別ヲ試ミシヨリ以來法ノ公私ヲ區別シテ説明スル學者甚多シト雖

憲法

別法公  
ト法ト  
區私



トモ其學說未タ一定ヒス現今尙法律學上ニ於ケル爭點ナルヲ以テ今爰ニ重ナ  
ン諸學說ヲ擧ケ聊カ其批評ヲ試ミ最後ニ予輩ノ公法私法ニ關スル考ノ大畧ヲ  
述フヘシ。

第一說

第一說 此說ハ利益ノ公ト私トヲ以テ區別ハ標準トナスモハニシテ公法ハ公  
益ニ關スル法ナリ。私法ハ私益ニ關スル法ナリト云ヘリ。然レトモ其所  
謂公益私益トハ如何ナルモノナルカト問フニ此說ヲ主張スル學者ノ中ニ  
於テ又其解釋ヲ異ニシ或學者ハ國家若クハ共同團體ノ利益カ公益ニシテ  
一個人ノ利益カ私益ナリト云ヒ又或學者ハ多數人ノ利益カ公益ニシテ一  
個人ノ利益カ私益ナリト解釋セリ。  
予輩ノ考フル所ヲ以テスレハ孰レノ解釋ニ從フモ利益ノ公益ヲ標準トシ  
テ公法私法ハ區別ヲ正確ニ爲スコト能ハスト信ス  
第一ノ解釋ニ從ヒ國家若クハ共同團體ノ利益ニ關スルモノカ公法ニシテ  
一個人ノ利益ニ關スルモノカ私法ナリト云ハンカ此主義ヲ主張スル學者  
ノ公法ナリト認ムル刑法及ヒ警察法等ノ如キモノハ私法ナリト云ハサル

其非難

ハカラス。何トナレハ是等ノ法ハ必スシモ國家若クハ共同團體ノ利益ヲ  
ノミ規定スルモノニアラスシテ一私人ノ生命財產ノ安寧及ヒ其自由ヲ保  
護シ一私人ノ利益ニ關スル規定渺ナカラサレハナリ。

若シ又第二ノ解釋ニ從ヒ多數人ノ利益ニ關スルモノ公法ニシテ一私人ノ  
利益ニ關スルモノ私法ナリト云フトキハ此說ヲ取ル學者ノ認メテ私法ナ  
リト爲ス所ノ合名會社、合資會社、及株式會社ニ關スル法即チ會社法ノ如キ  
ハ公法ナリト云ハサルヘカラス。何トナレハ會社法ハ必スシモ一人ノ利  
益ニノミ關スル規定ニアラスレテ多數人ノ社員ノ利益ニ關スル規定ナレ  
ハナリ。

如斯利益ノ公私ヲ標準トシテ公法私法ヲ區別スル學者ノ說明ヲ推演シテ  
論スルトキハ其公法ナリト認ムルモノヲ以テ私法ナリト云ヒ其私法ナリ  
ト認ムルモノヲ以テ公法ナリト云ハサルヘカラサルニ至リ自殺ノ論法ヲ  
ルヲ免レサルナリ。  
加之公益ニ關スル法ト私益ニ關スル法トハ必スシモ相拒絕スルモノニア



ラス公益ノコトヲ規定シタル法ハ私益ノコトヲ規定セス私益ニ關スル法  
 ハ公益ノコトヲ規定セスト云フニアラス。一ハ法ヲ以テ同時ニ二様ノ利  
 益ヲ保護規定スルコトアリ。例ヘハ警察法ニ於テ一私人ノ生命財産ノ自  
 由ヲ保護スルハ同時ニ國家ノ爲メニ其安寧秩序ヲ維持スルノ方法ナルカ  
 如キ是レナリ。又民法ニ於テ一私人ノ權利ヲ保護スルハ國家ノ秩序ヲ保  
 ツ大ナル手段ニシテ管ニ一私人ノ爲メノミナラス國家ノ利益ナルコトヲ  
 考フルトキハ民法モ亦國家ノ利益ニ關スル法ナルカ如キ是レナリ。故ニ  
 一ノ法ハ必ス同時ニ公益ト私益トヲ併セテ規定スルモノニアラザルカ如  
 タ考ヘ其規定スル利益ノ公私ヲ標準トシテ法ノ公私ヲ分クセントスルハ本  
 ニ縁リテ魚ヲ求ムルカ如シ。

第二說

第二說 此說ハ公法トハ直接ニ公益ニ關スル法ニシテ私法トハ直接ニ私  
 益ニ關スル法ナリト説明セリ。

其非難

此說ハ直接間接ノ區別ヲ附加ヘテ第一ノ學說ヲ維持セントスルモノナレ  
 トモ是レ亦曖昧タルコトヲ免レス。何トナレハ此說ヲ主張スル學者カ公

第三說

法ナリト云フ竊盜ヲ禁スルノ刑法ハ何故ニ吾人ノ利害ニ直接ノ關係ナク  
 シテ公益ニノミ關スルモノナルヤ。又其私法ナリト云フ國家及ヒ市町村  
 等ノ債權債務ノ關係ヲ規定シタル法ハ何故ニ間接ニノミ國家及ヒ市町村  
 ノ利害ニ關シ直接ニ其利害ニ關セサルヤ吾人ハ今理由ヲ發見シ能ハス。  
 蓋シ直接間接ノ區別ハ之レヲ解スル人々ノ感情ニ止マルモノニシテ法ノ  
 規定其モノニ直接ト間接トノ區別ナカルヘシ。

其非難

第三說 此說ハ公法トハ國家ト國家若クハ國家ト一私人トハ關係ヲ規定  
 スル法ニシテ私法トハ一私人相互ノ關係ヲ規定スル法ナリト説明セリ。  
 此說ハ法學者間ニ最モ廣ク且ツ普通ニ行ハル、所ノモノニシテ其區別ノ  
 標準ノ取リ方簡明ニシテ且ツ正當ナルカ如シト雖トモ詳細ニ吟味スルト  
 キハ尙缺點アルヲ免レス。何トナレハ此說ヲ採用スル學者ハ公法ナリト  
 認ムルモノハ内ニ於テ一私人相互ノコトヲ規定スルモノアリ又私法ナリ  
 ト認ムルモノハ内ニ於テ國家ト一私人トノ關係ヲ規定セルモノアリテ自  
 家撞着スル所アレハナリ。



今實例トシテ我現今ノ國法中ヨリ公法ト稱スルモノハ中ニ一私人ノ相互ノ關係ヲ規定スル法ハ存在セル例ヲ舉クレハ例ヘハ第三ノ學說ヲ遵奉スル學者カ認メテ公法ナリトスル所ノ刑事訴訟法第二條第四條及第七條ニ於テ一私人相互ノ關係タル私訴ノコトヲ規定シ又民事訴訟法中ニ於ケル一私人相互ノ關係ニ對スル數多ノ規定ノ如キ是ナリ又其私法ト稱スルモノハ中ニ就テ國家ト一私人トノ關係ヲ規定セル例ヲ舉クレハ此說ヲ唱フル處ノ學者カ私法ナリト認ムル民法財產編第二十二條及ヒ第二十三條ニ於テ國家ノ處有ニ屬スヘキ公有及ヒ私有財產ノコトヲ規定シ其第三十一條ニ於テ國家カ一私人ノ財產ヲ買上ル公用徵收ノコト及ヒ國又ハ官廳ニ屬スル先買權ノコトヲ規定スルカ如キ是ナリ

斯ノ如ク公法ト稱スルモノ、中ニ於テ一私人相互ノ關係ヲ規定スルモノアリ私法ト稱スルモノ、中ニ於テ國家ト一私人トノ關係ヲ規定スルモノアルヲ以テ公法ハ國家相互ノ關係若クハ國家ト一私人トノ關係ヲ規定スル法ナリ私法ハ一私人相互ノ關係ヲ規定スル法ナリト云フ說ハ到底成立

チ得サルモノナリ

然ルニ此說ヲ辯護スル學者ハ說ヲ作シテ曰ク吾人カ爰ニ國家ト稱スルモノハ公權ノ資格ヲ有スル場合ヲ指スモノナリ公權ノ資格ヲ有セス一私人ノ資格ニ於テ現ハレタル場合ハ國家ト云ハス民法中ニ於テ國家ト一私人トノ間ニ於ケル財産上ノ關係ヲ規定セル場合ハ國家ヲ以テ公權ノ資格ナキ一私人ト同等ニ見做シタルモノニシテ一私人相互ノ關係ヲ規定セルモノナリ故ニ民法中ニ國家ノ財産ニ關スル規定アリト云フコトヲ理由トシテ第三ノ學說ヲ攻撃シ能ハス云々ト

然レトモ公權ノ資格ニ於テ權力ハ主體トシテ現ハレタルトキハミカ國家ニシテ公權ノ資格ヲ有スル權利義務ノ主體トシテ現ハレタルトキハ國家ニアラスト云フ論者ハ國家ナル觀念ヲ十分ニ了解シ居ラサルモノナリ權力ノ主體タルトキモ權利義務ノ主體タルトキモ均シク國家ナリ權力ノ主體タルトキハミカ國家ニアラス、此事ハ我輩ハ國家ノ定義ト云フ章ニ於テ述ハタル理由ニヨリテ明ラカナルヲ以テ辯護者此議論モ亦到底成立シ得サル



第四說

モノナリ  
 辯護者ノ考フルカ如キ意味ヲ正當ニ云ヒ顯ハサント欲ヒハ國家ト云フ文字ノ代リニ寧ロ公權ノ主體或ハ權力ノ主體ト云フ文字ヲ用レテ公法トハ權力ノ主體ト一私人トノ關係ヲ規定スル法ナリト云フコゾ適當ナレ從テ辯護者ノ考ヘハ次ニ述フル所ノ第四ノ學說ニ近寄りタルモノニシテ寧ロ第四說ノ如ク説明スルコト正當ナリ然ルニ辯護者ハ却テ第四說ヲ排斥シテ之レヲ採用セズ國家ト云フ文字ヲ誤リタル不當ノ意味ニ用ヒテ第三說ヲ固守スルハ甚タ怪シムヘキノ至リナリ

第四說 公法トハ權力ノ關係ヲ規定セル法ニシテ私法トハ權利義務ノ關係ヲ規定セル法ナリト云フ說是ナリ

此說ハ方今獨乙學者ノ中ニ於テ最モ完全ニシテ且ツ斬新ナリト尊重セラレタル說ニシテ我國ノ學者ノ間ニモ大ニ行ハル、所ノモノナリ予モ亦嘗テ一度此說明ヲ聞キ其標準ノ明確ナルニ感服シ一時ハ此說ヲ主張シタルコトアリ

其非難

然ルニ其後公法私法ノ區別ニ付テ少シク考慮ヲ費セシニ此說モ亦正確ニアラストノ考ヘ起レリ何トナレハ此說ヲ主張スル學者ハ法ノ規定スル一切ノ事柄ヲ分チテ權力ノ關係及ヒ權利義務ノ關係ノ二トナシ法ノ規定スル關係ハ此二ツノ外ニ出テズ權力ノ關係ニアラサレハ必ズ權利義務ノ關係ナリ權利義務ノ關係ニアラサレハ必ズ權力ノ關係ナリ故ニ權力ノ關係ヲ規定スル法ハ公法ニシテ權利義務ノ關係ヲ規定スル法ハ私法ナリト云フトキハ法律全體ニ對スル明確ナル區別ニシテ一點ノ疑タニ容ルヘキ餘地ナシト云ヘリ。

予ノ考フル所ニヨレハ權力ノ關係及ヒ權利義務ノ關係ト云フ區別ハ法ノ規定セル一切ノ事柄ヲ悉ク網羅シタル區別ニアラス、法ノ規定セル事柄ニシテ權力ノ關係ニモアラス亦權利義務ノ關係ニモアラスナルモノアリ從テ權力ノ關係ヲ規定スル法カ公法ニシテ權利義務ノ關係ヲ規定スル法カ私法ナリト云フトキハ公法ニモアラス私法ニモアラス公法ト私法トハ外ニ於テ其何レニモ屬セザル一種特別ハ性質ヲ有スル法ハ存在スルト云フ奇觀ヲ呈ス。



今我國法ノ中ヨリ權力ノ關係ニ對スル規定ニモアラス又々權利義務ノ關係ニ對スル規定ニモアラサル法ノ存在スル實例ヲ示サシニ例ヘハ民法人事編第二百六十二條ニ於ケル民法上ノ住所ハ本籍地ニ在ルモノトナスト云フ規定ノ如キ第二百六十六條ノ本籍地カ生計ノ主要地ト異ナルトキハ主要地ヲ以テ住所トナスト云フ規定ノ如キ又民法財產編第六條ノ物ニ有體ナルアリ無體ナルアリト云フ規定ノ如キ是レナリ人事編第二百六十二條及ヒ第二百六十六條ハ住所ニ關スルノ規定ナリ財產編第六條ハ物ノ種類ニ關スル規定ナリ住所及ヒ物ノ種類ハ權力ニモアラス又權利義務ニモアラス故ニ住所及ヒ物ノ種類ニ關スル規定ハ權力ニ關スル規定ニモアラス權利義務ニ關スル規定ニモアラス故ニ公法ハ權力ノ關係ヲ規定スル法ナリ私法ハ權利義務ノ關係ヲ規定スル法ナリト云フコトヲ標準トシテ判斷スルトキハ住所及ヒ物ノ種類ニ關スル法ハ公法ニモアラス私法ニモアラサル一種特別ノ法ナリト云ハサルヘカラサルニ至ル是レ第四說ニ從ヒ公法ニ權力ノ關係ヲ規定シ私法ハ權利義務ノ關係ヲ規定スル法ナリト云フトキハ公法ニモ屬セス私法ニモ屬セサル一種ノ中間法現ハル

此區別ハ法律全體ノ區別トナラヌト云フ所以ナリ。

論者或ハ說ヲ作シテ謂ハン抑モ住所ノ所在地カ何所ニアルヤト云フコトハ權利義務ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ又物ハ權利ノ目的物ナルヲ以テ其目的物ニ關スル規定ハ權利ニモ關係ヲ有スルモノナリ故ニ住所及ヒ物ノ種類ニ關スル規定モ亦權利義務ニ關スル規定ナリ云々  
然レトモ此議論ハ醫藥ノ分業ハ病者ノ便不便ニ大ナル關係アルヲ以テ醫藥分業ニ關スル法ハ病者ニ關スル法ナリト云フ議論ト同一ノ議論ニシテ牽強附會モ亦甚タシキモノナリ假令住所ヲ定メ物ノ種類ヲ區別シタル結果カ權利義務ニ影響ヲ及ホスモ夫等ハ間接ノ結果偶然ノ事實ヲシテ其規定ノ目的物カ住所及ヒ物ノ種類ニシテ權利義務ニ非サルトキハ其法ハ權利義務ニ關スル所ニアラス是レ論者ノ說ハ牽強附會ナリト云フ所以ナリ  
要スルニ第四ノ學說ハ法ノ規定スル一切ノ事柄ヲ權力及ヒ權利義務ニ限リ其權力ニ關スル法カ公法ニシテ權利義務ニ關スル法カ私法ナリト云フ見解ナレトモ吾人ノ考フル所ニヨレハ法ノ規定スル所ノモノ、即チ、法ノ實質ハ是々ノモ







必ス私法的規定ナリトナスコト能ハサルヤト云フニ刑法附則第五十五條ノ如ク一條中ニ於テ其第一項ハ公法的關係タル國家機關ノ行フ贓物還給ノコトヲ規定シ一ノ條文中ニ於テ公法的規定ト私法的規定トヲ合シ其一方ニミ片付ケルコト能ハサレハナリ。

期ノ如ク公法私法ハ法典ノ上ヨリ區別シ能ハサルノナラス又條文ノ上ヨリモ亦區別シ能ハサルコトアルヲ以テ吾人ハ刑法中ノ規定ナルト民法中ノ規定ナルトヲ問ハス尙モ權力ノ關係ニ對スル規定ナルトキハ之レヲ公法ト稱シ非權力ノ關係ニ對スル規定ナルトキハ之レヲ私法ト稱シ又一ツノ條文中ニ於テモ權力ノ關係ニ對スル規定ト非權力ノ關係ニ對スル規定トカ存在スルトキハ其一ツノ條文中ニ公法及私法ノ二ツカ存在スルモノト認メ法律實質ノ上ヨリ公法私法ヲ區別セントス故ニ余ノ考ヨリ云フトキハ民法必スシモ私法ニアラス刑法必スシモ公法ニアラス民法中ニ公法アルコトアリ刑法中ニ私法アルコトアリ余ノ所謂公法私法トハ以上ノ如キ意味ヲ有スルモノナリ

### 第二節 憲法

憲法

憲法ノ如何ナルモノナルヤヲ説明スルニ當リ豫カシメ注意スヘキコトアリ即チ憲法ト云フ文字ニ二様ノ用法アルコト是ナリ。

憲法ト云フ文字ニ二様ノ用法アリ

第一ノ用法ハ成文憲法ヲ指シテ憲法ト稱スル用法ニシテ即チ形式上ノ憲法ト稱スルモノ是ナリ。

第二ノ用法

第二ノ用法ハ規定スル事項ノ上ヨリ觀察シ或ル一定ノ事項ニ關スル規定ヲ指シテ憲法ト稱スル用法ニシテ所謂實質上ノ憲法ト稱スルモノ是ナリ第一ハ用法ニ於テ憲法ト稱スルモノハ其規定スル事項ノ如何ヲ問ハス尙モ憲法ト云フ名ヲ以テ制定公布セラレタハハ悉ク之レヲ憲法ト稱ス其制定公布ノ時ニ當リ憲法ト云フ名義ヲ以テセサルモノハ天皇ノコトヲ規定スルモ帝國議會ノコトヲ規定スルモ其他如何ナル事項ヲ規定スルモ之ヲ憲法ト謂ハス故ニ英吉利ノ如ク憲法ト云フ名ヲ以テ公布シタル法典ナキ國ニ於テハ此第一用法ニ於ケル憲法ナルモノナシ。

第二ハ用法ニ於ケル憲法即チ實質上ノ憲法ト稱スルモノハ其制定公布ノ名目表題ノ如何ヲ問ハス或ル一定ノ事項ニ關スル規定ヲ指シテ之レヲ憲法ト云フ

憲法



其制定公布ノ表題ニハ民法ト云フ名義ヲ以テスルモ商法ト云フ名義ヲ以テスルモ訴訟法ト云フ名義ヲ以テスルモ其規定スル事項カ所謂憲法の規定ナルトキハ其表題ノ民法ナルト商法ナルト訴訟法ナルトノ間ハ其所謂憲法の規定ヲ總稱シテ之レヲ憲法ト云フ故ニ此用法ニ於テ憲法ナル文字ヲ用ユルトキハ民法法典商法法典訴訟法法典等ノ中ニ於テ憲法存在スルコトアルノミナラス翻テ他ノ一方ヨリ見ル時ハ憲法ト云フ名義ヲ有スル法典中ニ憲法ニ非ラサルモノ存在スルコトアルヘシ隨テ又英吉利ノ如キ憲法ト云フ名義ヲ以テ公布シタル法ソ無キ國ニ於テ此用法ニ於ケル憲法ハ存在スルコトアルヘシ。

要スルニ憲法ト云フ文字ニハ此二様ノ用法アリ而シテ第一ハ用法ニ於ケル憲法即チ形式上ノ憲法ハ如何ナルモノナルヤト云フ問ニ對シテ成文憲法ヲ指シテ是レ即チ憲法ナリト云フ迄ニシテ其事柄極メテ簡單ナレハ別ニ之レカ説明ヲナスノ必要ナシ只從來ノ學者カ憲法ノ如何ナルモノナルヤヲ説明スルニ當リ其頭腦ヲ惱マシタルモノハ第二ハ用法ニ於ケル憲法即チ實質上ノ憲法ニ關スル説明ナリ故ニ予モ亦憲法ト云フ文字ニ此二様ノ用法アルコトヲ示シ第二

ノ用法ニ於ケル憲法ハ果シテ如何ナルモノナルヤヲ研究セントス。

但シ實質上ノ憲法ト云フ名義ハ學者カ學問研究ノ爲メ又説明ノ便宜ノ爲メ設ケタル名義ニシテ實質上ノ憲法トハ斯様々々ハモノナリト云フ國法上一定シタル法文ナリ又一定スヘキノ理由ナシ故ニ何カ實質上ノ憲法ナリヤト云フ問ニ對スル學者ノ答必スシモ一致スルノ必要ナシ學者ハ各自己ノ意見ニ隨カヒ憲法ト云フ文字ノ下ニ於テ論究スヘキ事柄ヲ定メ各隨意ノ事柄ヲ論シテ差支ナシ然レトモ憲法ト云フ名義ノ下ニ於テ論究スヘキ事柄ヲ定ムルニ當リテハ其自ラ定メタル定義ト其名義ノ下ニ於テ論スル事柄ト相一致シテ其範圍分量ヲ異ニセサル様又其自ラ定メタル定義ニヨリテ憲法ト其他ノ民法刑法訴訟法商法裁判所構成法等ノ如キ法トヲ正確ニ區別シテ曖昧不明ハ點ナキ様注意シ最モ適當ナリ最モ正確ナル定義ヲ撰マサルヘカラス矛盾ハ今從來ノ公法學者カ擇ヒタル定義ヲ一通リ諸君ニ示シ聊カ其批評ヲ試ミ果シテ如何ナル定義ヲ以テ適當ナルトナスヘキヲ研究セントス。

從來公法學者ノ擇

從來ノ公法學者カ下シタル憲法ノ定義ニ關スル重ナル學說ヲ彙類スルトキハ



ヒタル定

第一說

凡ソ左ノ三種トナル  
第一 憲法ト云フ文字ト國家法ト云フ文字ト同一ノ意味ニ用ヒ國家法中ヨリ行政法ト稱スルモノヲ除外シ行政法ハ國家法中ニ容ルヘキモノニアラストナス學說ナリ

第二說

第二 行政法ヲ以テ憲法ノ一小部分トシ憲法ト云フトキハ行政法ハ當然其内ニ含マシ憲法ト行政法トハ相對峙獨立スルモノニアラスト云フ學說

第三說

第三 國家法ヲ分チテ憲法及行政法ノ二トナシ憲法及行政法ハ各々國家法ノ一部分ニシテ互ニ相對峙獨立スルモノナリト云フ學說是ナリ

第一說解

第一說 第一說ハ「ゲルベル」氏千八百八十年出版ノ獨逸國家法論綱ト題セル著書ノ附録ニ於テ始テ主張シ其後「ラハント」氏カ自ラ發行スル所ノ公法雜誌第二卷百五十五頁ニ於テ詳ラカニ説明セラレタリ  
是等ノ學者ノ考フル所ニ據レハ憲法ハ國家法ハ國權ニ關スル法ノ全体即チ國權ハ實質範圍及ヒ國權執行ノ機關並ニ形式ニ關スル規定ナリ行政法ハ行政行為ニ關スル法ナリ而シテ行政行為ハ國家ノ意思目的ヲ達セントスルモノニシテ

右ノ批難

國家百般ノ事實ニ對スル行為ナルカ故ニ行政法ハ憲法民法商法刑法訴訟法等ノ法典ノ如キハ公法及私法ニシテ國法全体ニ跨カルモノナリ國法全体ニ跨カル法ニシシ法人ノ考フルカ如ク行政法ト云フ一種特別ノ法アルニ非ラス故ニ行政法ハ國家法即チ憲法ノ一部分ニ非ラス又憲法ト相對峙シテ存在スル一種特別ノ法ニ非ラス隨テ學者カ行政法ヲ以テ憲法ノ一部分ナリトシ或ハ國家法ヲ分テ憲法行政法トナスカ如キハ大ナル誤ナリト云フニ在リ  
予ハ此第一說カ行政法ト云フ一種特別ノ法存在スルモノニ非ラストナシタル點ニ就テハ大ニ贊成ヲ表スト雖モ憲法トハ國權ノ實質範圍國權執行ノ機關及ヒ形式等凡テ國權ニ關スル法ナリト云フニ至リテハ贊成ヲ表スルコトニ躊躇ス若シ「ケルヘル」及「ラハント」氏等ノ如ク憲法ハ國權ノ實質範圍國權執行ノ機關形式等凡テ國權ニ關スル法ナリト云フトキハ刑罰權ノコトヲ規定シタル刑法刑罰ヲ執行スル機關及ヒ刑罰執行ノ形式ヲ規定シタル刑事訴訟法及裁判ノ機關並ニ形式等ノコトヲ規定シタル裁判處構成法及民事訴訟法等ノ大部分ハ憲法ト云フ名義ノ下ニ於テ説明セサルヘカラス何トナレハ刑罰權及裁判權ハ是



亦、國權ノ一種類ナレハ刑罰權及ヒ裁判權ノ實質範圍及ヒ執行機關並ニ形式等ニ關スル法ハ國權ニ關スル法ナレハナリ

「ゲルヘル」氏及「ラハント」氏等ハ憲法ハ國權ニ關スル法ノ全體ナリト云フ定義ヲ採リタルニモ拘ハラズ憲法ト云フ名義ノ下ニ於テ刑法刑事訴訟法民事訴訟法及ヒ裁判所構成法等ノ大部分ヲ説明セズ其國家法(憲法)ト題セル著書ヲ見ルニ是等ノ事柄ニ論究シタルモノナシ則チ「ゲルヘル」氏及「ラバント」氏等ノ定義ニ據ルトキハ其定義中ニ含ム所ノ事柄ト其國家法ト云フ名義ノ下ニ於テ論スル所ハ事柄ト其分量範圍ヲ同フセス是即チ定義ノ不完全ナルコトヲ表白シタルモハナリ

第二說ノ釋義

第二說 第二說ハ行政法ヲ以テ憲法ノ一小部分トナシ憲法ト云フトキハ行政法ハ當然其内ニ含マレ行政法ハ憲法ヲ離レテ憲法ト對峙獨立スルモノニ非ラズト云フ考ナリ

此說ハ「メルケル」氏ノ主張セルモノナリ「メルケル」氏ハ千八百八十五年出版ノ國學通論第二編各論ノ部ニ於テ憲法及ヒ行政法ノ事ヲ論シ憲法トハ統治ノ範法

右ノ批難

統治ハ機關及ヒ統治ノ形式ニ關スル法ニレテ行政法トハ統治ノ範圍統治ノ機關及ヒ統治ノ形式ノ細目ニ關スル法ナリ即チ行政法ノ規定スル所ハ統治ノ範圍機關形式ノ細目ナルトモ均シク統治ノ範圍機關形式ニ關スル法ニシテ只細目ト云フ事ニ於テ區別ノ標準ヲ立ツルヲ以テ行政法ハ憲法ノ一小部分ナリ憲法ヨリ分離シテ憲法ト並ヒ立チテ存在スルモノニ非ラズト云ヘリ予ノ考フル處ニ據レハ此說モ亦次キニ述フルカ如キ二ツノ缺點アルヲ以テ敬服遵奉スル事能ハス

第一ノ缺點ハ第一說ニ於テ述ヘタル所ノモノト同一ナリ何トナレハ此說ヲ採用スル學者ハ憲法ノ定義ヲ下シテ憲法トハ統治ノ範圍統治ノ機關統治ノ形式ニ關スル法ナリト云フト雖モ統治トハ一方カ命令シ一方ノ者カ服從スルト云フ權力ノ關係ヲ謂ヒ顯ハスモノニシテ統治ト云フ事ハ權力ト云フ事ト同一ノモノナレハ權力ト云フ文字ヲ以テ統治ト云フ文字ニ換ヘ此定義ヲ謂ヒ顯ハストキハ憲法ハ國家ノ有スル權力即チ國權ノ範圍及ヒ其執行機關若クハ形式ニ關スル法ナリト云フ事ニナリ第一說ノ定義ト同一ノモノトナル雖テ又第一說



ニ於テ述ヘタルカ如ク憲法ト云フ名義ノ下ニ於テ刑法民事訴訟法刑事訴訟法及ヒ裁判所構成法等ノ大部分ヲ説明スヘキ筈ナリ然ルニメルケル氏ハ如斯モノヲ以テ憲法ト云フ名義ノ下ニ説明セス其定義ト其説明スル所ト相一致セシ是レ則チ第一説ト同一ノ缺點アリト云フ所以ナリ

第二缺點ハ行政法ノ定義ヲ下シテ行政法トハ統治ノ範圍機關及形式ノ細目ニ關スル法ナリトナシタルニ在リ若シ此定義ニ從ヒ行政法トハ統治ノ範圍機關形式ノ細目ニ關スル法ナリト云フ事ヲ標準トシテ考フル時ハ如何ナルモノカ行政法ト云フ名義ノ下ニ於テ論スヘキモノナルヤ到底之レヲ知ルコト能ハス何トナレハ此定義ハ細目ト云フ事ヲ唯一ノ標準トナシテ憲法ト行政法トノ下ニ於テ論スヘキモノヲ區別セントスレトモ細目ト云フ言葉其モノカ已ニ曖昧ニシテ如何ナル事柄カ細目ノ事柄ニシテ如何ナル事柄カ細目ノ事柄ニ非ラヌヤト云フニ其判斷ハ人々ノ感情ニ依リテ異ナルヘク是レ是レノ事柄カ細目ナリ是レ是レノ事柄カ細目ニアラスト客觀的ニ定ムルコト能ハス從テ又如何ナル事柄カ行政法ト云フ名義ノ下ニ於テ論スヘキモノナルヤヲ知ル事能ハス漠

第三説ノ解釋

然ト文學ノ上ヨリ見ル時ハ行政法トハ統治ノ範圍機關及形式ノ細目ニ關スル法ナリト云フヲ以テ行政法中ニ於テ論スヘキ事柄ハ判然明確ナルカ如シト雖トモ少シク實際ニ就テ考フル時ハ頗ル曖昧ニシテ到底如斯標準ヲ以テ行政法ノ下ニ於テ論スヘキ事柄ト論スヘカラサル事柄トヲ區別スル標準トナシ能ハス第二説ヲ採用スル學者ハ如斯學理上用フヘカラサル曖昧ナル文字ヲ用テ行政法ノ定義ヲ下シ此曖昧ナル文字ヲ標準トシテ行政法中ニ於テ論スヘキモノト否ラサルモノトヲ區別セント試ミタリ是レ第二ノ缺點アリト云フ所以ナリ

第三説 第三説ハ國家ニ關スル法ヲ國家法ト稱シ國家法ヲ別テ憲法及ヒ行政法ノ二トナシ憲法及行政法ハ各國家法ノ一部分ニシテ互ニ對峙獨立スルモノナリト云フ考ナリ

此説ハ「グナイスト」シルツエー「ウルブリヒ」ボルンハツク「及ヒ其他ノ近世獨乙ノ公法家カ一般ニ唱フル所ノモノナリ而シテ此説ヲ主張スル學者中ニ於テモ如何ナルモノカ憲法ニシテ如何ナルモノカ行政法ナルヤト云フニ至リテハ各其見解ヲ異ニシ必スシモ相一致セサルヲ以テ次ニ其見解ノ重ナルモノヲ掲ケ順



第一ノ見解

次説明スヘシ  
 第一ノ見解ハ國家ニ關スル最大ノ原則ヲ規定スル法カ憲法ニシテ國家ニ關スル細小ナル事柄ヲ規定スル法カ行政法ナリト云フニ在リ  
 此見解ハ第三説ヲ採用スル學者ノ一般ニ唱フル所ノモノニシテ國家法ニ關スル普通ノ教科書中最モ多ク見ル所ノモノナリ  
 然レトモ予輩ノ考フル所ニ據レハ此見解ハ頗ル漠然タルモノニシテ如斯見解ニテハ如何ナルモノカ憲法ニシテ如何ナルモノカ行政法ナルヤト云フ事ヲ區別シ能ハスト信ス何トナレハ此見解ハ國家ニ關スル最大ノ原則ヲ規定スルモノカ憲法ニシテ細小ノ事柄ヲ規定スルモノカ行政法ナリト云ヒ最大細小ト云フヲ標準トシテ憲法ト行政法トヲ區別セント試ミタレモ最大最小ト云フ事ヲ標準トシテ區別シ得ヘキモノハ度量衡ニテ計リ得ルモノニ限ル度量衡ニテ計ル事ヲ得ルモノナル時ハ何尺何貫何石以上ヲ最大トナシ何尺何貫何石以下ヲ細小トナスト云フ一定ノ標準ヲ定メ爰ニ始テ正確ナル最大ノ事柄ト細小ノ事柄トヲ區別スル事ヲ得ルナリ然ルニ國家法ニ於テ論スル事柄ハ度量衡ヲ以

第二ノ見解

テ計ルコト能ハサルカ故ニ何ヲ最大ノ原則ト云ヒ何ヲ細小ノ事柄トナスヤト問フニ一定ノ標準アルコトナク各人ノ感情ニヨリテ定ムルノ外ナシ各人ノ感情ニ由リテ定ムル時ハ其著シルシキモノニ付テハ各人一致スルコトアルヘシト雖トモ些細ナル事ニ至リテハ人々其意見ヲ異ニシ或ル學者カ最大ノ原則ナリト認メ憲法ト云フ名義ノ下ニ於テ論スヘキモノナリトナシタル事柄ヲ以テ他ノ或學者ハ細小ノ事柄ナリト認メ行政法中ニ於テ論スヘキモノナリト主張シ憲法行政法ノ區別ハ人々ノ感情ニヨリテ其範圍ヲ異ニシ曖昧模糊ノモノトナリ到底正確ナル區別ヲナシ能ハサレハナリ故ニ第一ノ見解ハ廣ク通俗ニ行ハルニモ拘ハラズ余輩ハ曖昧ナリトシテ之レヲ斥ク  
 第二ノ見解ハ國家ノ組織ニ關スル法カ憲法ニシテ國家ノ作用ニ關スル法カ行政法ナリト云フ見解ナリ  
 此見解ハグナイスト氏ノ主張セシモノニシテ現今ノ公法家中ニハ此見解ヲ贊成スルモノ少ナカラズグナイスト氏ハ英吉利行政法第三版第一百七頁ニ於テ國家ノ組織ニ關スル法カ憲法ニシテ國家ノ作用ニ關スル法カ行政法ナリト云



フ事ヲ説明シ憲法ト行政法トヲ區別スル標準ハ之レニ優ルモノナカル可シト  
 誇レリ  
 然レトモ予ノ見解ニ據レハ「グナイスト」氏ノ考モ亦正當ニアラサルカ如シ「グ  
 イスト」氏ノ如ク組織ニ關スルモノカ憲法ニシテ作用ニ關スルモノカ行政法ナ  
 リト云フ時ハ言葉ノ上ニ於テハ憲法ト行政法トハ明ラカニ區別セラレテ少シ  
 モ疑ヲ容ルヘキ餘地ナク憲法ト行政法トヲ區別スル完全ナル標準ノ如ク見ユ  
 レトモ其實如斯主義ヲ貫徹セシメ憲法ニ於テハ國家ノ組織ノ事ノミヲ論シ行  
 政法ニ於テハ國家ノ作用ノミヲ論スルト云フ譯ニハ至ラサルモノナリ  
 組織ノ事ヲ論スルト同時ニ作用ノ事ヲ論スル必要ナリ作用ノ事ヲ論スルト同  
 時ニ組織ノ事ヲ論スル必要アリ強テ一方ニノミ編シ組織ノミヲ論シテ作用ニ  
 及ハス又作用ノミヲ論シテ組織ニ及ハスト云フ主義ヲ固ク取ル時ハ充分ナル  
 説明ヲナレ能ハサルノミナラス人ヲシテ完全ナル理解ヲナサシムル事能ハス  
 故ニ「ガナイスト」氏ト同一ノ主義ヲ採用スル公法學者ノ著書ヲ見ルニ其憲法ト  
 稱スルモノ、内ニ於テ論スル事柄ハ必ラスシモ國家ノ作用ハミニ限ラス組織

第二ノ見  
解ノ批難

ハ事ヲモ包含ス是レ憲法ハ國家ノ組織ニ關スル法ニシテ行政法ハ國家ノ作用  
 ニ關スル法ナリト云フ定義ハ只言葉ノ上ニ於テノヨ完全ナル皮想的ノ區別ノ  
 標源ニシテ其實不完全ノモノナリト云フ所以ナリ  
 今第二ノ見解ヲ採ル學者ニシテ憲法ノ範圍内ニテ國家組織ノ事ノミヲ論セス  
 又國家ノ作用ヲ行政法ニ於テノミ論セサル實例ヲ舉クレハ彼ノ「グナイスト」氏  
 カ立法ノ事ヲ憲法ノ中ニ於テ論シ行政法中ニ於テ論セサルカ如キ其實例ナリ  
 立法ハ國家ノ作用ニシテ國家ノ組織ニ非ラサル事明ラカナレハ「グナイスト」氏  
 ノ見解ニ從ヒ國家ノ組織ハ憲法ニ於テ論ン國家ノ作用ハ行政法ニ於テ論スヘ  
 キモノナリト云フ主義ヲ取ルトキハ立法ノ事ハ當然行政法ノ中ニ於テ論スヘ  
 キモノニシテ憲法中ニ於テ論スヘキモノニアラサルナリ  
 然ルニ「グナイスト」氏ハ第二ノ見解ヲ採用スル率先ノ者ナルニモ拘ハラヌ立法  
 ノ事ヲ行政法中ニ論セス却テ憲法中ニ於テ論スルハ自由撞着ノ甚クシキモノ  
 ニシテ其自家撞着ハ偶々以テ「グナイスト」氏見解ノ不完全ニシテ且ツ正當ニアラサ  
 ル事ヲ證明スルノ材料ナリト云ハサルヘカラス如斯第二ノ見解ヲ採用スル率



先者タル「グナイスト」氏ノ著書ニシテ尙ホ標準ト實際トハ必スシモ相一致トス  
是レ吾輩カ第二ノ見解ハ完全ナルカ如シト雖トモ其實不完全ナルモノナリト  
云フ所以ナリ

第三ノ見解ノ意義

第三ノ見解ハ憲法ハ統治ノ主體客體及ヒ統治者自ラ行フ統治權ノ作用ニ關ス  
ル法ニシテ行政ハ國家ノ機關カ統治權ヲ行フニ當リ其行爲ノ標準トナル處ノ  
法ナリト云フニ在リ統治ノ客體トハ國土及ヒ臣民ニシテ統治ノ主体ハ國家ナ  
リ而シテ此主義ヲ主張スル學者ノ國家ヲ以テ天皇ノ同一物ト認ムルカ故ニ換  
言スレハ憲法ハ 天皇土地臣民及ヒ 天皇自身ニテ行フ所ノ統治權ノ作用ニ  
關スル法ナリ行政法トハ 天皇自ラ統治權ヲ行ハス自己ノ機關ヲシテ統治權  
ヲ行ハシムル場合ニ當リ其機關ノ行爲ノ標準トナル法ナリト云フ意味ナリ此  
見解ハ獨逸ノ國法學者ホルハツク氏カ維來ノ憲法ト行政法トノ區別ニ關スル  
説明ヲ排斥シ千八百八十八年出版ノ普魯士國家法第一卷第七十七頁ニ於テ始  
テ主張シタルモノナリ

第三ノ見解ノ批難

ト主張セシヨリ其講義ヲ聞キタル人々ノ中ニハ此見解ヲ正當ナリト妄信スル  
モノ少ナカラス然ルニ我輩ハホルンハツク氏ノ説明ヲ熟讀玩味シテ其當否ヲ  
勘考セシニ此見解モ亦正當ニアラサルヘント云フ考ヘテ惹起セリ

其一

次ニ其不當ナルヘント云フ理由ノ一二ヲ述フヘシ  
第一ノ理由ハ「ホルンハツク」氏ノ見解ハ其基礎ニ於テ誤リアリト云フニ在リ何  
カ其基礎ニ於ケル誤ナリヤト云フニ國家ト 天皇トヲ同一物ナリト認メタル  
ニ在リ獨乙普通州法及ヒ吾國ノ憲法ヲ見ルニ 天皇ハ國家ノ元首ナリト云フ  
明文ヲ掲ケタルヲ以テ 天皇ハ國家ノ元首ニシテ國家其者ニハアラサルナリ  
「ホルンハツク」氏ハ既ニ明文ノ存在スルニモ拘ハラズ此明ラカナル法理ヲ見誤  
リ 天皇ト國家トハ同一ナリト斷定シ其誤リタル法理ヲ基礎トシテ憲法ト行  
政法トノ區別ヲ説明セラレタリ然レトモ 天皇ト國家トハ同一物ニアラサル  
事ヲ願ミル時ハ「ホルンハツク」氏ノ見解ハ其基礎ニ於テ誤リアリト云ハサルヘ  
カラス既ニ其基礎ニ於テ誤リアルコトヲ知ル時ハ其誤リタル基礎ノ上ニ組立  
テタル議論ノ不正ナルコトハ言フ俟タズシテ明カナリ是レ「ホルンハツク」氏ノ



見解ハ不當ナリト云フ所以ナリ

第二ハ理由ハ行政法ヲ以テ國家ノ機關カ統治權ヲ行フトキニ當リ其行爲ノ標準トナル法ナリト定義セルハ汎キニ失シタルモノナリト云フニ在リ若シ「ボルンハツク」氏ノ如ク統治權ヲ行フ國家機關ノ行爲ノ標準トナル法カ凡テ行政法ナリト云フ見解ヲ取ルトキハ普通裁判所ハ國家ノ機關タルニ相違ナク其裁判ハ統治權ノ作用タルニ相違ナキヲ以テ普通裁判所カ裁判ヲ行フニ當リ其行爲ノ標準トナル法ハ悉ク行政法ナリト云ハサルヘカラス而シテ普通裁判所カ裁判ノ標準トナス法ハ國法全体ナルヲ以テ憲法刑法民法訴訟法裁判所構成法等其他凡テノ國法ハ悉ク行政法ニ屬シ行政法ヲ説クトキニハ是等一切ノ法ヲ盡ク論セサルヘカラス「ボルンハツク」氏ハ前ニ述ヘタルカ如キ見解ヲ採リタルニモ拘ハラズ其著書行政法ノ中ニ於テハ決シテ是等ノ事柄ニ迄論及セサルナリ

管ニ「ボルンハツク」氏カ論究セサルノミナラス行政法ト云フ標題ノ下ニ於テ國法全体ヲ論シタル學者ハ未タ曾テアラサルナリ是レ「ボルンハツク」氏ノ見解ハ汎キニ失シタルモノニシテ不當ナリト云フ所以ナリ

真正ナル  
憲法定義

憲法及ヒ行政法ノ説明ニ關シテ我輩ハ種々ノ著書ヲ讀ミ諸學者ノ説明ヲ聞キ深慮熟考シテ孰レカ尤モ正確ナルヲ研究シタルニ以上述ヘタルカ如ク各多少ノ欠點アル事ヲ見出シ未タ敬服遵奉スヘキノ説明ヲ聽カス

蓋シ憲法行政法ノ如何ナルモノナルヤヲ説明スルニ當リ其規定スル所ノ事柄ヲ標準トナシ某事柄ヲ規定スルモノハ憲法ニシテ某事柄ヲ規定スルモノカ行政法ナリト云フ方針ニテハ到底論理ノ貫徹シタル完全ナル説明ヲナシ能ハサルヘシ因テ予輩ハ從來諸學者ノ採用シ來リタル方針ヲ棄テ其主義ニ拘泥セス全ク別種ノ方法ヲ以テ別種ノ標準ニ據リ説明ヲ試ミ憲法トハ憲法々々學理的的ニ説明スルモノナリト云ハントス學理的ノ説明トハ單ニ憲法々々ヲ素讀スルノ意味ニアラス又其條文ヲ枚舉駢列スルト云フ義ニアラス論理ノ規則ニ從ヒ一定ノ順序素統ヲ立テ此順序素統ニ從ヒ演繹若クハ歸納ノ方法ニヨリ憲法々々全體ノ意義ヲ説明スルモノヲ云フ

憲法ノ説明ニ關シ如斯定義ヲ取ル時ハ諸君ハ定義ノ頗ル淡白ナルニ驚ロクナルスシ然レトモ法律ハ其實質ヲ定ムル能ハスト云フ事ヲ願ミ又吾人カ成文憲



法ノ外ニ於テ別ニ憲法ト稱スルモノヲ認メタルハ先ツ成文憲法ト云フ法典制定セラレ其法典ヲ學者カ研究スルニ至リテ始メテ起リタリト云フ事ヲ願ミル時ハ吾輩ノ定義ハ現今ノ進歩セル法學上ノ觀念ニ基キ且歴史上ノ觀念ニ根據セルモノニシテ強カチ我儘勝手ノ定義ニアラサル事ヲ知ルニ定ルハシ又吾輩ノ如キ定義ニ據ル時ハ其憲法ト稱スルモノ、中ニ於テ論スヘキ事柄ハ憲法々典中ニ含マル、事柄ニヨリテ明カニ確定ヒラレ彼ノ一般學者ノ採用スル定義ヨリ生スルカ如キ定義ト實際ノ説明トカ一致セサルノ弊ナキコトヲ願ミル時ハ此淡泊ナル定義カ却テ彼ノ濃厚ナル定義ニ優ルコトヲ知ルニ足ラン是レ予カ一般學者ノ採用シ來リタル定義ヲ棄テ憲法トハ憲法々典ヲ學理的ニ説明スルモノナリト云フ淡泊ナル定義ヲ取リタル所以ナリ予輩ハ如斯實質上ノ憲法トハ憲法々典ヲ學理的ニ説明スルモノナリト云フヲ以テ憲法々典無キ所ニハ予ノ所謂實質上ノ憲法ナレ彼ノ英國ノ如キハ憲法ト云フ名義ヲ有スル典法ナキヲ以テ所謂實質上ノ憲法ナルモノナシ學者ノ通常英國憲法ト稱スルモノハ他國ノ憲法ト稱スルモノト異ニ他國ノ憲法ト稱スル法典

中ニ於テ普通一般ニ記載シ有ル事柄ト類似ノ事柄ニ關スル規定ヲ英國ノ法律規則ヨリ採集メテ機械的ニ他國ニ似ヌ憲法ト稱シタルニ過キス其實英國ニハ形式上ノ憲法ナクシテ憲法ト法律トノ區別ナキヲ以テ實質上ノ憲法ナルモノ、存在ヲ認ムルノ必要ナシ是レ予カ英國ニ於ケル實質上ノ憲法ノ存在ヲ認メサル所以ナリ然レトモ此處ニ認メスト云フハ學問上ニ於テ認メスト云フ事ニシテ機械的ニ他國ノ眞似ヲナシテ憲法ナルモノヲ認ムルト云ハ、之ヲ尤ムルノ限ニアラス

行政法ノ定義説明ニ關シテハ「ゲルベル」及「ヒラバント」氏等ノ主義ニ從フ、行政法ハ國家全體ニ通スルモノナリ行政法ト云フ特別ノ法ナシト云フ事ニ心付キ從來ノ學說ニ一大變動ヲ與ヘタルハ「ゲルベル」及「ヒラバント」氏等ノ卓見ニシテ學問上ニ於ケル其功績ハ沒スヘカラサルモノナリ彼ノ行政法ト云フ名義ハ下ニ於テ説ク所ノモノヲ見ルニ或ハ官制ノ如キ或ハ官吏服務規律ノ如キ或ハ各省大臣ノ職務取扱ニ關スル條例ノ如キ行政官ノ行為ニ密接ノ關係アル小條例ニシテ民法商法刑法ト云フカ如ク一ツノ科目トナシテ特別ノ名義ヲ與ヘ



五  
6=

大日本帝國憲法汎論(完結)

特別ニ説明スルノ價值ナキモ、ハ、ヲ、假ニ行政官ト云フ名義、ハ、下ニ集メテ之ヲ説明スルニ過キス。  
行政法ト云フ名義ハ如斯條例ヲ機械的ニ集メテ之ニ興ヘタル機械的ノ名稱ナリ學問上存在スヘキ特別ノ法ニ非ラサルナリ。

八二

佛三〇

工  
八







和佛法律學校  
憲法元論講義  
井上憲

I  
6=

031519-000-9

工-6二

憲法(元論)講義

井上 密/述

[M30?]

BBE-0119

